

第14回復興支援活動

(復興地に学ぶ会)

「復興地という場をお借りして

人としての生き方を学ぶ会」



石巻 金華山 (牡鹿半島)

201.10.5－10.8

【第14回 復興地に学ぶ会 行程表】

10月5日(金)	18:30	JR尼崎駅 南側バスロータリー 受付			
	19:00	バス出発			
6日(土)	6:30	石巻港IC(高速道路)から一般道へ			
	7:00	門脇小学校前を通過			
	8:30	牡鹿仮設商店街 到着＝お弁当受取(みさき屋)			
	9:00	鮎川浜より金華山へ船出発			
	10:00	第1日目 作業開始			
	17:00	作業終了 → 宿泊施設へ → 夕食			
	19:00	体験発表会			
	23:00	消灯			
7日(日)	6:00	ラジオ体操→朝食			
	7:00	館内大掃除			
	9:30	清掃終了			
	10:00	「神鹿角切り行事祭」参加			
	13:00	金華山から鮎川浜へ船出発			
	13:30	牡鹿仮設商店街散策(各自昼食)			
	15:30	牡鹿ボランティアセンター出発			
	17:00	大川小学校到着→ご冥福をお祈りする			
	18:00	道の駅(上品の湯)入浴+夕食=2時間			
	20:00	バス出発(帰路)			
8日(月)	8:00	JR尼崎到着 解散			

第十四回 「復興地に学ぶ会」体験記

★★兵庫県三十代 女性★★

今回で三回目の参加となります。参加をさせていただいたたびに、「感謝」の言葉が胸をつきます。今回も、甘えてばかりの自分は、感謝をすることばかりの中で存在していることに気づかせていただきました。

八月に参加させていただいたとき、毎日子どもたちが揃って学校に来てくれることは、当たり前のことじゃない、「来てくれてありがとう」と感謝することなのだと思われました。

今回の会から兵庫に戻った次の日の十月九日、自分が担任を受け持つクラスの生徒が二人体調不良で欠席をしました。朝、保護者の方から欠席連絡をいただいたとき、心から「寂しい」と感じました。「会いたい、学校に来てほしい」と心が冷えるように寂しくて、そのとき「ああ、毎日来てくれることに感謝するとは、こういうことか」とようやく自分の心で感じることができました。情けないのですが、この会に参加してなければ生徒の欠席をこんなに寂しく思うことはなかったと思います。「早く元気になってね」と声をかけながら「来てくれる」と思い込んでいました。今までの自分を省みました。

今回参加させていただき、自分のことを反省す

るばかりではなく、どうすれば変われるか、できることはなにか、動ける自分にしていこうと思えました。なぜそう思ったかというと、運転手さんを含め同じバスに乗せていただいた皆様や、現地の皆様のお顔が本当に素敵で、私もこんな表情をてる人になりたいと思っただけからです。

皆様のお言葉や行動からも感じることはたくさんあるのですが、皆様がやさしく柔和なお顔をされていて、徳を積まれている方は、きっとこのようなお顔になるのだらうと思えました。年齢に関係なく、若い先生方も、以前お会いしたときよりもっと素敵なお顔をされていました。ときどきとした行動の中に常に周りへお心遣いがあり、人一倍動かれています。その「凄さ」を一切表に出さずにいらっしやいます。そのようなお顔を拝見して一緒に活動できましたことは、今回の一つの学びでありました。

また、今回私が印象に残ったことは、門脇小学校の近くにある墓地や、金華山での景色を美しいと感じたことです。墓地にはたくさんのお花が飾られていて、仏様が子どもを抱いている像がたくさんあって、とても悲しい光景なのに、力強さがそこにあって、美しいなと思いました。誰かが誰かを思うから、そこに人がいて花があつて、人を思う気持ちは、強くて美しいなと思いました。金華山の自然も動物も、津波の痛みも悲しみも全部知っ

ていて、それでも美しく存在していて、人も自然も同じだと思いました。

朗読をおきした「ひまわりのおか」の中で、自分のもとに帰ってきてくれた子どもに「がんばったね」という声をかける場面がありました。私は、親の思いというのは、こういう思いなのかと、何も知らなかった自分にまた気づかされました。今もがんばっている子たちがいることを、忘れません。

帰りのバスで学生の皆様の体験発表を聞かせていただき、おひとりおひとりの発表に感動しました。「ガードレールの作業をしているときに、一番活動していたのは、日野さんだった。被災された方と自分の気持ちの違いを気づかされた。」ということや「自分が成長できれば自然とバトンタッチができる」ということをおっしゃっていました。私もこんなふうに、自分のことや周りの人のことを感じて動ける素直な心を大切にしていこうと思いました。

全ての人に感謝をし、そして言葉だけの感謝にならないように、しっかりといろんなことを感じて、続けて動いていけるようになります。ありがとうございました。

★★大阪府三十代 男性★★

素晴らしい四日間、ありがとうございます。支援して下さる日本を美しくする会のみなさん、安全に快適に運んで下さる神姫バスの運転手さん、活動を受け入れて下さった東北のみなさん、パンの差し入れを宮崎先生、ジュースの差し入れを山本さん、お菓子の差し入れをゴンちゃん、陰ですべてを整えて下さった大谷先生。自分では、何もせずバスにただ乗せていただきました。みなさんがいてくださり、活動できる俵せを感じています。

東北に降り立つと、日々いきり立っている僕の心がゆっくりとニュートラルになります。日々、足元でがんばっている子どもたちに目を向けず、高く、広くばかりを求めてしまい、子どもの変化ばかりを求めているレベルの低い自分に、東北の大地は、大切なことはなにかを優しく教えてくれます。金華山での活動を前に、大谷先生は「お相手が望むことを心を込めてさせていただきましょう」とおっしゃいました。実際、行ったのは、公園の清掃と宿舍の清掃でした。大きく変化のわかる活動ではなく、小さな小さなことかもしれないですが、日々、結果・成果にばかり目が行く自分にとって、これほどありがたいお手伝いはありませんでした。一緒に活動されている方が、一枚一枚、落ち葉を拾ってらっしゃいました。一時間近

く拾ったでしょうか。辺りはすっかりきれいになり、場が笑っているように見えました。

二月、渡邊さんがつてくださった谷川小学校での活動後の学校の写真を見て、学校が笑っているように見たのがきっかけで、その時から、僕の中で、掃除後にその場が笑顔になっていくのを少し感じるようになりました。今回も掃除をさせていただく中で、どんどん公園が、宿舍が、笑顔になっていくのを感じました。大阪で、教員をしていると、このようなことを感じる心のゆとりがなくなり、小さなことへの感謝が薄れ、仕事での結果・成果が目に見える変化ばかりを求め、焦る自分が出てきます。

三日目の朝の雨を見て、神主の日野さんが、「お参りしないからですね。お参りしたら晴れますよ」とおっしゃいました。活動して、変化を生むことばかりに目が行き、小さな相手を思う当たり前の行動を外す。これが今の自分の現状だと感じました。こうして全てに神様を見て生きてきた日本は、生活のいたるところに自分の在り方を見直す場所があることを再確認しました。

三日目の夕方には、大川小学校に参りました。今回初めて、地元の方にお話を聞かせていただきました。お話を聞きながら、震災のことが頭から薄れ、いろんなことを当たり前と感じ、感謝を忘れて生活している僕がいる一方で、震災後、一年

七か月もの間、ご家族のご遺体を未だ探し続けていらっしやる方がいる。自分のふがいなさを反省し、今、自分の置かれている現状は感謝すべきことがたくさんあること、生かされている自分に何ができるのか今一度真剣に考えるべきだと感じました。

教員である自分だからこそ、責任を持ち、東北から学ぶ必要がある。

教員である自分だからこそ、責任を持ち、生き方を子どもに示す必要がある。

牡鹿の商店街では、千々松さんが、コーヒーを紙コップに入れ、ラップをして下さり待っていてくださいました。石森さんが、お休みの店を開けて、待つてくださいました。エネオスの岡田さんが写真を飾って待つてくださっていました。浅野さんが、藤坂先生が、温かく迎えてくださいました。

僕が子ども達にすべきことは、見返りを求めない東北の方々の生き方です。お相手をただだと思いい、喜ばせようとする東北の方々の生き方です。相手に変化を求めるのではなく、自分を動かすそんな生き方を子ども達の前でこつこつ実践できる自分になっていきたいです。

★★大阪府四十代 男性★★

この度も、復興地に学ぶ会に参加させていただきました。いつもながらき、大変ありがとうございます。いつもながら会を主催してくだいました「日本を美しくする会」ならびに「大阪便教会」世話人大谷弘先生に心から感謝申し上げます。ありがとうございます。また、安全に私たちの往復の運転を担っていただきました神姫観光バス三田営業所、新西さん、柳本さん大変ありがとうございます。

【金華山にて】

今回、金華山に行かせていただきました。金華山には「日本を美しくする会」として三回目のご訪問ですが、個人的には念願かない今回初めて参加させていただきました。金華山は島全体が霊島で島に上陸するだけで、個人的にです。が神々しさを感じていました。しかし、島の玄関である港は震災、津波、そして台風により地盤沈下や崖崩れなど甚大な被害の爪痕を残してしまいました。見晴らしのいい参道から牡鹿半島や海を臨むとすばらしい絶景、そして多くの鹿が草を食み、穏やかなお天気とさわやかな気候のもと復興地であることを忘れてしまうほどでした。被害の爪痕との大きなギャップを感じ、自然の厳しさを感じました。

【鹿の角切り神事に参加して】

金華山黄金山神社の秋の一大神事は鹿の角切

り神事です。勉強不足の私は、どのような神事なのか、どのように行われるのかなど、全くわからず、第一日目の作業に入りました。

黄金山神社境内は本来に広大な敷地で、角切り神事が行われるエリアを準備するだけでも、かなりの労力が必要であることは容易に感じられました。今回はその準備としてお掃除をさせていただきました。今回はその準備としてお掃除をさせていただきました。雄大な景色の中でお掃除をさせていただくことは、お手伝いさせていただくというより、多くの心の栄養をいただいた気分でした。

角切り神事は想像以上に迫力があり、また勢子の方々も勇敢で日本の伝統行事に参加させていただくことができ、本来にありがたい気持ちになりました。また、私たちのお仲間が三人代表で勢子の皆さんと共に神事に参加され、一観客として大いに盛り上がり、幸せな気持ちをいただきました。

神事本番を観客として参加させていただきながら、前日に角切り場をはじめ周囲をきれいに整えることができ、本当に良かったと心から感じました。ありがとうございます。

【大谷先生と日野さん（宮司）】

第二日目はあいにくの雨模様でした。大谷先生もおっしゃられていましたが、大切な心の部分を忘れていた。「他人の家に上がらせていただき、挨拶もせず、勝手に掃除を始めていた。心が欠け

ていた、個々ではお参りをしたものの、全員でお参りはしておらず、大事な部分が抜けていました。」大谷先生のあの時の「はっ」とされたお顔が忘れられません。心磨きのつもりが、くすんだ自分の心に気づかされました。ありがとうございます。

【牡鹿のれん商店街にて】

牡鹿のれん商店街でおいしいお食事をいただきました。本当においしいのですが、それはお食事をご提供くださる商店街のみなさんの心がこもっているからだ。と今回さらに感じました。バスを見送って下さいましたエネオスの岡田さんの笑顔、牡鹿のれん商店街の方々の笑顔が忘れられません。ありがとうございます。

【大川小学校にて】

今回初めて、大川地区に住まれ、被災された方が、いろいろな状況を教えてくださいました。恥ずかしながら、小学校の周りにもちろん住宅があることは知っていましたが、あれほど多くの住宅があるとは認識していませんでした。昨年七月から知る限り、小学校の周囲は更地になつていたので、津波被害以前の姿を知りませんでした。

今回、教えていただいたのは、この地区の津波は他の地区に比べて強かったこと。そして地域の方々も早急には避難されなかったとのこと、「今までは、これまでは『ここまでは来ない』とい

う過信があったのではないかとということでした。だからみなさんは、想定外とか、今まではなかったからなどということにとらわれず、その時その場で判断してくださいとのことでした。そして、最後に“子どもたちを教える皆さんは、ここに来て（大川小学校）パチパチ写真を撮るような子供を育てないでほしいと伝えられました”

いまだ我が子を重機で探すご夫婦、お話して下さった木村さんご自身も下流域を毎日歩かれ、時にはお骨をお拾いになられるとのこと。いつも以上に神聖な気持ちでお話を伺いました。まだまだ悲しみは続いている、そして、やり場のない悲しみが続いていることを感じました。久井さんの笛の音に、悲しみの音色を感じました。

大川小学校だけではないと思いますが、私たちは、今回の震災でどのようなことが起こったのか、今ほどのような状況なのか、自分たちが学ぶことは何かなど、本質の部分を伝えなければならぬと強く感じました。

【道の駅 上品の郷にて】

今回、上品の里には私の友人、浅野さん、石森さんご家族、と一緒に食事をさせていただき、心に栄養をいただきました。

なかでも浅野さんは震災を機に人生が加速度的変わられたように感じています。Kスタでの君が代斉唱、復興応援詩の入選、各地での講演会な

ど、きつとお疲れではあるうことは予想がつきませんが、立ち止まることなく逆に自らが走り続ける姿に、自分も日常に不平や不満など持たずに、すべてに「ありがとうございます」の気持ちを込めて臨まなければならないと強く感じました。

☆最後に

今回の現地二日間、車中二日間を通じて感じたことは、現地では特に、私たちが何かをさせていただく事よりも、現地の方々にしていただいたことの方が、間違いなく、はるかに多かったと感じました。復興地という場をお借りして、みなさまから生き方とエネルギー、心の栄養を本当にたくさんいただきました。幸せな気持ちにさせていただいて大阪に帰ってまいりました。本当にありがとうございました。

ご参加の皆さんから、特に古松先生はお掃除をされながらずっと「ありがとうございます、ありがとうございます」とおっしゃっていました。その姿やお言葉を聞きながら心に栄養をいただきました。また大阪産業大学野球部の学生の皆さんの“とにかく動こう”とする姿に“本当にすごいなあ”と感じ、学ばせていただきました。多くの時間を共にさせていただき、表面的に見える姿ではなく、その場に臨む心の姿勢や見えない心に多くの学びをいただきました。本当にありがとうございました。

大阪において、日々の日常生活を大切に、そして丁寧な生活いたします。今回も大谷先生はじめ、ご縁をいただきましたみなさん、大変ありがとうございました。

★★大阪府三十代 男性★★

はじめに今回も多くのご支援してくださる方々のおかげで行かせてもらいましたこと感謝申し上げます。ありがとうございます。

今回は現地一泊で金華山に行かせてもらいました。今回で三回目の金華山ということもあり復興してきたことまだまだのところがとあり複雑な気持ちをもって入らせて頂きました。

「現地の人たちが一番してほしいことを丁寧にさせてもらいたいと想います。」と大谷先生のお話から始まった今回の活動です。まさしく、一番頼みにくくあるけれど、一番大切な神事で使用する場所の清掃をさせて頂きました。自分たちの達成感があることをさせて頂くのではなく、頂いた仕事を丁寧に組み立てて頂くことの大切さを感じました。集団として活動している中、自然と協力し合いやりがいを感じられました。

【命のバトンタッチ】

私が一番気づき学び、感じさせて頂いたことです。金華山の移り変わりを渡邊翔一さんの写真で

ふりかえりました。次に「ひまわりのおか」という大川小学校で被災に合われたお母さんたちが書かれた絵本を読み聞かせをしました。その後、五、六人のグループディスカッションで体験発表をしました。私は司会をさせて頂き、みなさんの姿勢を拝見するだけで学び多き時間になりました。それだけでなく、実際に話し合いをする

中でより深いところまで感じる事ができました。みなさんの温かいご協力ありがとうございました。大川小学校に行かせてもらい「親の子に対する想い」を知りました。親はみんな子どものことを無条件で想いは一緒にいるからとか一緒にいないとかではないこと、過ごした時間の長さではないこと：深く重いものと気づかせていただきました。ひとつ、こうした血のつながりを通した命のバトンタッチはよくわかります。

もう一つ、亡くなった方から受け取る命のバトンタッチもあります。まさに大川小学校であり、被災された方々が多くおられる石巻市で知ることのできる命のバトンタッチです。生きておられる方の生き方からも受け取ることもできますが、大川小学校に行かせてもらうのは亡くなるしかなかった人がいることを知り、バトンタッチし自らの生き方として伝えていくことです。世の中の命すべて同じであり、自分の家系だけよければそ

れでいいものではないのです。「生きていることも亡くなったことも意味がある」

そうして考えた時、「命の重さや深さを感じると「いじめ」なんてできない。軽々しく人のことをおちよくりいじくりまわしすることなんてできない。」そういう意見が学生や、大人の中からもありました。

あらためて、命の重さや深さを学ばせて頂きました。と同時に親の子どもへの愛情を感じ、両親に感謝の想いを伝えたいです。両親を大切にしながら先祖を敬い自分の家族がいてくれる当たり前ではない日常を大切に生きたいです。また、日頃一緒に学んでいる子どもたちに対しても自分の思いを押し付けていることがありました。感謝できる自分になって子どもたちと接していき教育に尽力していきたいです。今回の復興地に学ぶ会で学び感じ気づいたことを日常生活にいかせて初めて生き方として自分が変わるように想います。自分を変えていくことからスタートしていきたいです。

最後に私を待ってくれている石巻市おしかのれん街の鯨歯工芸家の方がいる有難さを感じました。「なんだか、久しぶりにあった気がしないね。親戚のようだよ。親戚よりたくさんあっていいもんね。」と有難いお言葉を頂きました。感動してうるつとしてしまいました。ご縁を大切にこ

れからも長いお付き合いをさせて頂きたいです。第十四回復興地に学ぶ会でご縁を頂いた多くの方々に感謝して体験記とさせて頂きます。ありがとうございます。

★★奈良県六十代 男性★★

第十四回復興地に学ぶ会に参加させて頂きありがとうございました。

今回学ばせて頂いたことは、表面的な日程上では見えないことに多くの時間をかけ、多くの人が関わり、深い思いがある事への気付きでした。例えば、金華山について、波が高くて船が出ない時のプログラムや宿泊場所を設定するための話し合いや、その為に中止かどうかの決定直前まで関わって下さっている多くの方々が私たちの動向を見守って頂いていることに気付かせていただき、本当に感謝でした。また、現地では店で被災時のことを長い時間かけて話して頂いた鯨歯工芸の千々松様、日曜日は家族の日として店が休みであったにも関わらず、来店人数を聞いて店を開いてくださった石森さん、そして渋滞で遅くなつて会えなかったけれど、上品の郷に差し入れを持って来て頂いた釜小学校の藤坂先生、私たちを楽しみに待って頂いている方々の温かい気持ちに触れて、本当にうれしく思い、感謝でした。

現地で活動する時に、自分が満足する以上に相手のニーズに応え、思いを受け止めているかが大切であって、自己満足で「めでたい人間」になってはいないと感じました。金華山に着いて参加者全員で最初にお参りをすることが礼として大切なことであつたことに気付かなかつたことや部屋をお借りしているのに、使っているのが普通のように思い、感謝の気持ちが薄れていたのではないだろうかと思いました。またバス代にあつても日本を美しくする会様の篤い思いから御厚意を頂いていることにもっと感謝し、活動をもっと積極的に行ない、もつと取り組む姿勢を高めなければと思いました。

大阪産業大学硬式野球部の学生さんの参加態度と姿勢は素晴らしかったです。学年が上がる毎に発言内容、行動力、そして素直さが高くなり、特に人から学ぼうと言う気持ちが伝わり態度に表れていました。この場に参加を重ねての成長と学校での日々の指導の積み重ねがあればこそ、このような素晴らしい生き方・行動をされているのだと思います。子どもたちの成長は指導する人と周りの環境によって大きく成長していくこと、つまり育てに育てることによって育っていくと感じました。

今回学ばせて頂いた二つの気付きがありました。一つはイベント伝統行事などの日常生活の復

活のお手伝いをさせて頂いた意味に気付かせて頂いたことです。金華山黄金山神社の「鹿の角切り」の神事に参加させて頂き、その震災前のぎわいを教えて頂き、宮城県石巻にあつては金華山の復活なしには復興はありえないのではないのでしょうか、そのためには金華山の現状を知り、どのようなお手伝いが出てくるか、金華山の責任者の方々の話し合いを密にして、ニーズに合った内容を活動としなければと思いました。

もう一つは、被災された方々の心の痛みに思いを寄せることです。震災時に受けた心の傷、心の痛みは目には見えないことなので、その方が語られるか、私たちがそのことに気付くかが大切です。行方不明なつた子供を探し続ける母親の姿は、私たちがどのようにその母親の気持ちを察するか、釜小学校での陸橋の上で流されていく同級生を助ける事が出来ず見る事しかできなかった心の痛みは消えることなく、あの被災した時からずっと続いている心の痛み、私たちがそのことを心から思いを寄せる事が出来るようならねばと思いました。そして、この二つのことを行いながら、自らが現地に足を運びより多くのこと知り、その知ったことを各自の立場で多くの人々に知らせていく事によって、風化を少しでも遅らせることにつながると思いました。

「復興地に学ぶ事」は生き方を学ぶ事であり、

生き方を学ぶ事は日常生活に活かしていく事である。思いやりは困った人だけにするのでなく、日常の目の前の子どもたちや家族の人たちに当たり前のことを当たり前と思わずに感謝して行うことだと思います。有難う御座いました。

★★兵庫県六十代 男性★★

第十四回「復興地に学ぶ会」に参加させていただきありがとうございます。出発前現地の雨と冷え込みが心配でしたがさほどのこともなくほつとしました。

四月に金華山に入った時はまだボートはコンクリートの棧橋に接岸していましたが、今回は水面に没しており仮設の棧橋が設置されていました。地盤沈下があつたのでしょうかそれとも潮の満干の関係でしょうか気になるところでした。

今回させていただいた作業は明日に控えた「角切神事」催行の前に会場およびその周辺を掃き清めることでした。前回四月も同様の作業でしたので要領はわかつていたので仕事はずいぶん捗つたようでした。

さて私も昨年からのこの支援活動に参加させていたただき今回で六回目になります。私が参加させていただき主な目的は「笛を通して鎮魂の誠を捧げる」というものでした。はじめは、多くの人が

海の藻屑と消えた海上に向かつて一人静かに鎮魂の曲を吹くつもりでおりましたが思うような場所がなく、あくる日帰途の大川小学校で吹かせていただくことができました。

能楽「清経」は壇ノ浦の合戦を前にして、世を憐んで入水して果てた若き貴公子、笛の名手でもあった清経が笛の音に誘われて妻の枕辺に現れ、昔を偲び舞い語って自ずから念仏を唱え成仏し、また静かにあの世に帰ってゆくというストーリーです。このとき笛は「恋の音取」という特殊の笛を吹きます。大川小学校ではこの「音取」と「神楽」を奏して子供たちに舞い遊んでもらい、心穏やかにあの世にお帰りいただくという気持ちをこめて吹かせていただきました。

また今回金華山では津波の折、海が二つに裂けて海面が見えたというあの海を前にして「音取」と今回は「獅子」という親子の獅子が舞い戯れるという勇壮な笛を吹かせていただきました。無念のうちに亡くなられた方も悲嘆にくれる現世に生きる我々もいつまでも悲しみに浸っているのではなく、気を取り直して元気に自分の道を進んでほしいという思いで吹かせていただきました。被災地の方々が夢と希望をもつて生きてもらいたいと切に願うものです。

★熊本県四十代 男性★

第十四回復興地支援活動に参加させて頂きありがとうございました。今回参加するにあたり初めて悩みました。これまで五回ほど参加させて頂いたときは全て即決してきたのです。悩んだ理由は大谷先生を始め、日本を美しくする会のサポートをして頂いたレールに乗らせてもらうだけで、一番大切な現地のことを思い、寄り添うことが何度でも参加するなかで抜けてきていたからです。その中で、京都掃除に学ぶ会の坂本さんのお手紙の中に「金華山黄金神社様へ行くときまた楽しくなりますよ。大変でしょうけど、また参加されませんか」と書いてもらえていたこと、このバスに乗るようになりちょうど一年が経つということに参加を決意しました。当日集合場所であるJR尼崎駅に到着し、参加者の皆さんの顔を見たとき、参加して本当に良かったと思えました。それは参加しないと分からないものですが、参加する方々の表情から頂けるパワーがあるのです。そして、この日に参加できない宮崎先生が差し入れにいらつしやったこと（このあんパン大好きです）に感謝、感激し出発しました。

金華山に降り立ち、初めて見る景色は雄大で素晴らしい、胸が高鳴るほどでした。一方では地震の被害に加え台風で悲惨な状況になり、未だに復興の文字とはほど遠い姿に、行政の対応の遅さに

怒りがこみ上げてきました。この金華山は七五〇年に創建された黄金山神社あること、多くの鹿が生息していることで有名です。到着した日は掃除です。今回自分のテーマである「丁寧にやる」ということを胸に掃除をさせて頂きました。芝生の上には膨大な鹿の糞がありました。皆様の力で綺麗にすることが出来ました。

翌日は昭和三十八年に始まった鹿の角きり行事が二年ぶりに開催されました。この伝統行事に私達の中から三名参加することが認められ、その一名になれ大変嬉しく思いました。また、安全祈願に全員が参加出来たことはこれまでの歴史で初めてのことであり、これはひとえに大谷先生のご尽力のお陰であることを忘れてはいけません。私達三名は地元の方と一緒に勢子として参加し、鹿を捕ることにチャレンジしました。縄を何度も投げましたが、素人の私達の縄にはかかってくれません。ベテランの方の素晴らしい技を間近で見ながら、その凄さに唖然としました。なぜなら、素手で角を捕まえ、押さえ込まれる方がいたからです。捕獲したあとは、すぐに水を飲ませ、四、五名で鹿を押さえ、神主さんが角を切るのです。鹿の荒い息づかいを見たとき、胸が少し痛みました。鹿の角を切られた鹿はすぐに元氣よく走り出しました。本当にこのような貴重な行事に参加させて頂きありがとうございました。

鹿の角切りに参加された地元の方々には被災をされた方がほとんどでした。行事がある前の待ち時間にそれぞれが話をされていました。内容は震災当日の話、その後の様子等々です。身内の方の危機一髪の状態を笑いを交えながら話される姿、海で好きな釣りをしていると遺骨が流れてくることなどです。耳にしながら胸にくるものがたくさんありましたが一年七ヶ月の月日が「笑顔」で話すことができるようになった時間でもあったのでしよう。この地域は魚が豊富な場所でしたが、震災に遭われた一人の男性の方が避難所生活などを経て、「初めて食べた魚、イカを口にしたときの気持ちは忘れねえなあ」と地元の口調で仰っているのを聞き、当たり前前のごいかに大切なのかを改めて教えて頂きました。

今回も大川小学校へお参りに行きました。1年前にバスから降りた瞬間、涙が止まらなかつた場所です。多くの子ども達が亡くなったことを思うと言葉にはできません。この場所が観光地になるのは残念です。私達もバスで行くわけですが、大谷先生が仰る「教育に携わる人間としての使命」でもあるのです。毎回行くたびに気持ちが変わりますが、初めて現地の方の話を聞く機会があったこと、話の内容は忘れません。しかし、私の中で忘れられないのは私達がお参りさせて頂く直前に夫婦でいらっしやっただお母さんのことです。私

はお母さんと目が合いました。すぐにお帰りになりました。文字にすることは控えさせてもらいますが、今もお毎日重機を使い子どもさんを自分の手で探されていらっしやる思いを忘れないようにしたいと思います。

最後になりましたが、今回も私達を無事に東北へ連れて行って頂いた神姫バスの運転手さんにご感謝申し上げます。また、ガードレールをつくるなど一番大変な仕事をやってくれた大阪産業大学の硬式野球部の皆さんにも感謝申し上げます。宮崎先生がいらっしやらない中、四年生が本当に落ち着き行動し、発言する姿には驚きました。チームとしての役割がよくできていて感動しました。

★★大阪府二十代 女性★★

今回、初めて復興地に学ぶ会に参加させて頂き、石巻に行かせて頂きました。メディアを通して、そして、実際に行ってきた人から聞く情報と映像とだけを頭に入れて行く石巻は、想像とは、全く異なっていました。バスから降り立った瞬間、復興がだいぶ進んだ風景を目にし、「どうしてもっと早くここに来なかつたのだろう・・・」という思いが沸き起こりました。しかし、時間は過去にはもう、戻りません。震災が起こって、すぐに、

行動できなかった自分を、とても後悔しました。ただ、耳にするだけでは、駄目だとても実感した瞬間でした。

今回、門脇小学校と、大川小学校に、行かせて頂きましたが、すごく、胸が痛かったです。もし、自分の教えている生徒が・・・と思うと想像もつきません。本当に、自分ができるとは何なのか。命とは何なのか。とても考えさせられました。毎日、線香やお花をあげられに来るご両親たちにとって、観光バスでやってきて、写真を撮って帰る人たちを見るとどう思われるか。そのお話を聞いた瞬間、正直、自分自身、そこまで考えたことはなかつたので、とても、考えさせられました。もし、自分が逆の立場だったら・・・。相手のことを考えて行動していなかつた証拠です。日頃、振りかえれば、そのような場面はたくさんあるのではないかと気付かされました。

初めて行く、金華山では、鹿の糞や、枯れ葉のお掃除をさせて頂いたのですが、トイレ掃除と同様、やはり、初めは、ただ、もくもくとやるだけなのですが、やっていくうちに、きれいになっていくのが、とても気持ちがよく、気がつくつと、あ、ここも。あ、ここも。と、やってしまおう自分になりました。

そして、一日目の夜に行った、デイスカッションは、私にとって、本当に貴重な時間となりました。

た。私は、「幸せ」という、タイトルだったので
すが、日頃、あく幸せ！と口にするのはあった
としても、幸せとはなんですか？とは聞かれるこ
とはないし、真剣に考えることも無かったので、
実際に、聞かれて、あれ、幸せとは何なのだろう？
と悩んでしまいました。しかし、幸せとは、そん
なに考えなくても、結局は、当たり前のことや、
ほんの小さなことでも、幸せなのだということに
気がつきました。グループ内だけでも、さまざま
な意見がでて、そのひとつひとつが、自分の中
でも響きました。他のタイトル、「被災地」
「命」「家族」とありましたが、ディスカッショ
ンに参加した人数の数だけ考えがあり、わずか
一、二時間の間でしたが、自分の中で、確実に何
かが変わった気がしました。

最近では、以前よりも「ボランティア」、とい
う言葉をよく色々な場所で耳にし、簡単に言えそ
うな言葉のように錯覚しがちですが、実際は、大
谷先生がおっしゃっていた、『相手が本当にやつ
てほしいことを、喜んでやる』ということ。本当
にその通りだと思いました。

私は、ただ、色々なボランティアをして、自分
に満足していただけないのか、と強く、心を
打たれました。これから自分にできることは、何
なのか。今回学んだことを、自分の胸中だけに留
めて風化させるのではなく、次の世代に残せるよ

うに、自分自身が動き出さなければならぬと、
強く思いました。

今回、文章では書ききれない程、たくさんの方
とを学ばせて頂き、感謝の気持ちでいっぱいです。
一緒に、行かせてもらった他の方たちの、熱い思
いや、お掃除にしても、ここまで？というほど、
熱心にされる姿、他人を思いやる気持ち、自分に
とって、欠けている点であり、学ばなければなら
ない点だと、気付かされました。

大谷先生を始め、指揮をとって下さった方々、
そして、見えないところで、いろいろなサポート
をして下さった方々、本当に、本当にありがとうございました。
ございました。

★★大阪府二十代 女性★★

「第十四回復興地に学ぶ会」に参加させていた
だき、本当にありがとうございます。今回もた
くさんの方々に支えていただけて参加できたこ
とに感謝しています。

今回はあまり復興が進んでいない金華山での
活動ということで、前回とは違った光景を目に焼
き付けようと思い、参加させていただきました。
しかし、それ以前に石巻の街をバスが少しずつ進
んでいくと見えてくる灰色の風景に改めて衝撃
を受けました。前に進む度に目に飛び込んでくる

がれきの山。その山を見て、「とにかく一歩進み
だすため」にがれきを端へ集めただけであり、が
れきが見えなくなり、更地が広がったからと言っ
て街全体が復興へと進んでいけるわけではない
のだな。と感じました。

金華山では角切場や周辺の掃除をさせていた
だきましたが、「こんなにも広い所を数十人でき
れいには出来ないだろう」と思ったのが第一印象
でした。とてもきれいな芝生が広がっているとい
ても広い広場を一日足らずできれいに出来ると
は思いませんでした。私に出来ることはとにかく
目の前に見える範囲をきれいにすることだと思
い、それだけを目標にすることに決めて掃除に
取り組みました。すると自分の掃いた所がきれい
になり、そのきれいになった範囲が時間と共に少
しずつ広がっていることに気づきました。何度か
心が折れそうにもなりましたが、周りの方々がず
っと箒を動かす、ごみを拾っている姿にまたパワ
ーを頂き、最後まで頑張る事が出来たように思
います。終わってみると、広大な広場の芝生がより
一層青々と広がっている光景が目の前に広がっ
ていて、諦めずにコツコツ取り組むことの生み出
す力の大きさに驚かされました。

翌日、角切行事を見に来ていた人たちを見て、
気分良く角切行事を見てもらえたかな。と考える
と、きれいに掃除をして本当に良かったと思うこ

とが出来ました。

そして大川小学校でお話しを聞かせてくれた方に、心から感謝したいと思います。

「ここへ大型バスで来て、写真だけ撮って帰る人がいる。そんな子どもたちに育てないでほしい。」これだけ直球で想いを伝えてくださったことがとてもありがたく、同時に衝撃でもありました。自分がどのような子どもを育てなければならぬいかという道徳性を示していただいたように感じました。日々の生活の中で他の人を思いやる心が大切だとは頭では分かっているつもりではありませんが、改めて何よりも大切なことだと教えて頂いたように思います。

今回も復興地に学ぶ会に参加させていただき、本当にたくさんのお会いがあり、学ぶことがたくさんありました。本当にありがとうございます。

★大阪府二十代 男性★

はじめて金華山での活動に参加させていただいた。金華山は地震・津波だけの被害だけではなく、台風の被害もうけており、道路が陥没したり山肌が露わにされていた。天災の前には、多くの観光客・参拝者でにぎわっていた金華山。島全体が神社になっており、住宅地といったわけではないので、復旧がおくれているらしい。今は、どこ

となく寂しげな感じがした。また、金華山周辺の産業も金華山と関わっているらしく、本来の意味での復興は観光客や参拝者が元通りになってからだと教わった。

大阪で教師をしていて、この一年は（二年前とは違い）ほとんど東北のことについて話題にあがらなかった。どこか自分自身も忘れがちなことになり見て見ぬふりをしていたのだろうと思う。でも、実際東北の人達の中には厳然とした震災の記憶がのこっており、今なお震災中である。その言葉を慎んでうけとっているつもりであっても、ぼろぼろこぼしてしまっている自分も実際にいる。相矛盾した感覚をもちながら東北の人達から「おおい。ちよつとまってくれよ。」と呼び止められている気がしてならなかった。・・・目の前にある石巻の様子は震災後ではないことを自分に感じさせた。

金華山では角きり場の清掃（や角きり行事の観覧も）させていただいた。また、夜には（家族）（命）（幸せ）（復興地）のテーマでみなさんと話し合いの場をもたせていただいた。

清掃活動では、なんどもなんどもその広大さに心が折れそうになった。（しんどい）（おわんない）（どこをすればいいのか）そんな弱々しい自分といやがうえでも対面することになる。となりをみると黙々とみなさんが清掃活動に励んでい

るのをみて、自分はすごく奢った人間だったことに気づかされた（実際、今文章を打っている段になっても自分が普段自分の弱さに向き合っていないことに気づかされる）。子ども達にも普段、掃除はきちんと最後まで！なんて簡単にいつていたが、感謝しなくてはいけないことだと思いがらされた。清掃後は見違えるようにさわやかになっているのがわかった。そこに自分の力も少し入っていることになったかほつとした。

夜に、先ほどあげたテーマを深々と話したが、種類の価値観をもった方々とこのような人生の根幹のテーマについてはなしたのは生まれて初めてだった。それ故にとっても興味深い経験であつたし、学びが深かった。

翌朝には、角きり行事の観覧に参加させていただいた。白熱とした闘志や気合いが感じられ、十字なわによってしかを捕らえる。一歩間違えれば大けがにつながるため、みんなとても真剣で手に汗にぎるといった感じだった。予想していたよりも会場は盛り上がり、とても楽しい時間を過ごすことができた。船までの時間、高台にのぼって島の景色の端麗さに胸をうたれた。

と同時に、金華山には本当にたくさんの方々の観光客や参拝者が詰めかけていたのだろうなと安易に想像できた。その想像と現実とのギャップにまだ震災中なんだという実感がふつふつとわいて

きて、はっきりした形になっていった。

船で、金華山をあとにして、夕方に大川小学校にむかった。現地の方の話をきき、自分が教師として「人の立場にたつて考えられる。おもんばかれる、感じられる。」そういった人を育てていかないといけないと感じた。

帰りのバスの中で、金華山の神主さんが部屋を用意してくださったこと、雨プロまで考えてくださったこと。また、石森さんがわざわざお店をあけてくださったこと。藤坂先生が駆けつけてくださったことなど、自分の知らないところで復興地の方々の思いが動いていた。

子ども達を育てることよりも、まず自分自身を振り返って、「人の立場にたつて考えられる。おもんばかれる、感じられる。」そういった人についていこうと考えた。

今回の復興地に学ぶ会を通して、自分の弱さやたりなさに気づかされた。多くの学びの場を提供してくださった。復興地のみなさん、大谷先生をはじめ多くの方々に感謝している。

★★奈良県二十代 男性★★

第十四回復興地に学ぶ会、復興地にいかせていただいたこと、支援して下さっている「日本を美しくする会」の皆様、また準備や日程調整をし

てくださった方々、自分の身の回りの方々に感謝いたします。出発前から、家族や同僚からは優しい声をかけてもらい、学級の子どもたちにも「気をつけていってらっしゃい」と笑顔で見送っていただきました。行く前から自分がどれだけ身の周りの方々に支えられているか、まずそこに大きな幸せを感じました。ありがとうございます。

石巻に着き、門脇小学校では変化がない事実と時間の経過の早さを感じました。二ヶ月前にはあった家の基礎がきれい平らにされていたり、その上には緑の草が生い茂っていました。逆にその周りに咲く小さな花がとてもきれいに咲いているのも、なにかを私たちに訴えているようにも感じました。海岸線を見ると無残に積み重ねられた車、被災者の方が使っていてたくさんものが瓦礫の山としておかれています。そこに変化はなく、もどかしさも感じました。

金華山に行かせていただき、二年ぶりに行われるシカの角切り行事のお手伝いをさせていただきました。ていねいに活動させていただくことを心がけ、機械ではなく人力でしかできないことも感じました。素晴らしい自然のもと活動でき、自分がここにいる幸せをひしひしと感じていました。夜のディスカッションでは、真剣に「いのち」「被災地」「家族」「幸せ」について話しました。本当に充実した時間でした。今自分が経験してい

る見たこと、聞いたこと、肌で感じたこと、すべてのことは「命のバトン」として受け継がないといけないことを強く感じ決意しました。シカの角切り行事という素晴らしいものに携われたことが大変うれしかったです。震災以前は八〇〇人〇九〇〇人は来られていたというお話を聞き、早く多くの方が見物できるようになってほしいという思いが大きくなりました。見に来られていた地元の方、角切り行事に参加されていた方の表情を見てもできるだけ早く復興してほしいという思いが強くなりました。金華山での本当の復興は震災以前のように、たくさんの方が観光に訪れることができるようになり、笑顔になって帰ってもらうことだろうと思えました。また少しでもそのお手伝いができるときは、「ていねいに」させていただきます。四月以来に牡鹿のれん街に寄ることができ、ころ温まる食事をさせていただきました。たくさんお話もでき、のれん街の方の笑顔をたくさん見ることができました。本当に幸せな時間でした。

大川小学校では初めてその場で被災者の方がお話ししてくださいました。話すことも辛いだろう出来事を私たちのために思いひとつでお話していただき、たくさんの方の亡くなった方の「命のバトン」として受け継がないといけないと強く思いました。「起こらないと思っていたことが起こ

た」「震災後から毎日歩きながら探し続けている」といったお話、感謝いたします。

今回、素晴らしい場所で素晴らしい仲間とともに、素晴らしい時間を過ごせたこと心より感謝いたします。今の自分がいり環境に大きな幸せを感じますし、また自分が学び、気づいたことを伝えていかなくはならないという思いも強くなりました。いまの生活を「ていねいに」、当たり前にできていることに感謝すること、ひとのために生きることを行動に移していきたいと思えます。心より感謝申し上げます。

★★北海道三十代 男性★★

今夏に引き続き、二回目の参加をさせていただききました。

九月の上旬くらいまでは、参加は見送ろうと考えていました。その私が今回参加させていただこうと思ったのは、忘れもしない九月十五日(土)、北海道札幌市でキム先生のお話を聴かせていただいたことがきっかけでした。

私は東北の復興支援について、(一度参加したんだから、次はもう少し先でいいな)とか(今行ったら、〇〇だな。次回にしよう)とか、計算が頭の中に先にありました。行動はその先の選択肢。こんなことを考えている自分に何かもやもやし

てたちょうどその時でした。キム先生の『知覚動考』というお話を再び聴かせていただく機会を得ました。自分の中で、パチンとスイッチが入ったような感覚でした。その日の深夜、帰宅してすぐに、妻に「また石巻に行ってきたいいいなあ。』という話をしました。『行ってくれば。』と行ってくれた妻と、私が行っている間、いい子にしていてくれた長女(六歳)と長男(三歳)には本当に感謝しています。

いきなり集合時刻に遅刻をしてしまいました。下調べが不十分だったためです。皆さんには本当にご迷惑をおかけしましたこと、深くお詫び致します。そんな私に、大谷先生は、優しい言葉をかけて下さいました。「先生のお陰で、門脇小学校の辺りで時間ができました。」と。バスの中では拍手まで頂いてしまいました。(温かい方々だなあ)と最初から感動したことを今でも覚えています。

今回の復興地に学ぶ会は、夏とは少し違い、金華山の清掃が主な活動でした。船で移動しているときなど、何かこう、遊びに来ているような罪悪感を感じたときもありました。では、できることは何だろうと考えました。あまり、頭の回転がよくない私にできることは、ひたすら鹿の糞と向き合うことでした。殆ど休みなしに、活動していく中で、翌日に鹿の角切りを見にいらっしやる方々

の笑顔が浮かんでくる気がしました。

昼食時に感じたことがあります。それは、立つたままの目線では見えなかったものが、昼ご飯を食べるために座ったらたくさん見えたということ。きれいにしたはずなのに、まだまだ鹿の糞だらけでした。これは、子どもたちの目線に立つてことと同じなのかも思いました。目線まで下がって見たときに、見えるものが変わってくるのかななどと考えていました。『下座』という言葉も頭に浮かびました。

今回は部屋での学びもありました。朝、晴れていたならランニングをしよう、部屋の先生と話をしていました。午前四時に起きようと決めました。一度は四時に起きたましたが、雨が降っていると、いうことなので私はまた眠ってしまいました。約束をした他の先生方は、一階の、誰にも迷惑にならない場所で、複写はがきを書いておられました。このような姿が、私にはすぐ心地良い刺激になります。参加させていただいて本当によかったと思っただけでした。

大谷先生が、朝、「お参りをしに行くことを忘れていた。お参りに行こう。」と皆さんへ呼びかけました。そして、「本末転倒。根本が間違っている」と先生がおっしゃったとき、私一人であったなら、絶対にたどり着かない考えだなど思ったり、有難い気持ちになりました。

朝の参集殿での清掃活動でも学びがありました。印象に残っているのは、『畳の拭き方』と『照明の清掃』、『部屋着の整頓』です。恥ずかしながら、私は畳の拭き方を知りませんでした。目に沿って拭くというのは何となくわかっていましたが、できていませんでした。そんな私に、ある先生が『その拭き方だと鍵山先生は怒られるみたいですよ。』と教えて下さいました。正しい拭き方をする、なるほど、全く音がしません。しかも畳が痛まないようになっていました。思い上がっていないつもりでしたが、見つめ直すことができました。

一通り清掃が終わって、(もういいかな)と思っていたら、またある先生が、『照明もしましたよ。うか。』といつて下さいました。全部終わったと思っていた私は、衝撃を受けました。周りが全く見えていなかったことに。そして見えている先生がいることに。

『部屋着の整頓』もそうです。この会に参加される皆さんは、労を厭わない方々ばかりです。周りが喜んでくれることに全力を尽くす。そんな空間にいて、学べるのが、本当に幸せだと思います。

鹿の角切りに、特別参加させていただきました。待合室で、勢子さん方がお話しされていたことが頭から離れません。「大雨が降った日は、骨が流

れてくることもある。」「釣りをしていた人が、亡くなった方をつり上げて、海上保安庁が来た。でも、周りの人たちは、いつもの光景といわんばかり、普通に釣りを続けていた。」など……。北海道に住む私にとって、また周りの多くの方々にとつて、今は『震災後』です。何の不自由も、心を痛めることはありません。震災前と変わらぬ、いつも通りの毎日です。でも、石巻の金華山に集まられた皆さんは違いました。私たちを意識していたというのではないと思います。でも、一時間以上、待合室で待つ中、勢子さん方の会話の全てが、『震災の話』でした。大谷先生がおっしゃるように、まだまだ、こちらの方々にとっては、『震災中』なのだ、身をもって感じた瞬間でした。

大川小学校では、心がニュートラルに戻りました。普段、子どもたちの前に立っていると、期待してるからなのですが、どうしても多くのことを求めている自分がいま。そして、できない子どもたちにイライラしてしまうことがある、変化してくれない子どもたちに(何で!)と思ってしまう自分がいる……。大川小学校で手を合わせていただくと、そんな情けない自分の心が原点に立ち返っていくのを感じ、涙が溢れ出てきました。(生きていてくれるだけで、学校に来てくれるだけで有り難い)と。この想いは、翌週、今回の体

験と共に、すぐに学級の子どもたちへ伝えました。たくさんの学びや気づき、素敵なつながりをいただける、この復興地に学ぶ会が、今の私にとってはなくてはならないものになっています。北海道から来ているということで、みなさんにお気を遣わせてしまっていることに、申し訳なさを感じてはいるのですが、それでも、また参加させていただきたいと強く思う、そんな学ぶ会の皆さん、活動だと思っています。

また、参加させて下さい。皆様、どうぞよろしくお願い致します。

★★奈良県三十代 女性★★

いつも一番に感じるのですが、今回もまた、参加させていただけただけに感謝です。参加された皆さんや運転手さんそして、いつも迎えてくださった見送ってくださる石巻の方々。本当に素敵な方々の中で過ごさせて頂け有難かったです。本当にありがとうございます。

今回、金華山に向かわせていただくという事で以前お邪魔させていただいた時のことや、その時にご一緒させていただいた方々のことも思い出かべていました。そしてなにより、帰りにおしかのれん街に立ち寄らせていただき、出会える方々のことを思い、とても心待ちにしていました。

運転手さんのおかげで長時間バスの中にいたという感じもなく到着しました。

バスから降り、船に乗りかえる際、一番に目に入ったのは千々松さんの姿でした。わざわざ時間を見計らって差し入れを届けて下さり……。ところがまんたんになるほど嬉しい気持ちにさせて頂いての出発でした。ご自身のご都合だつてあるであろうに、船を見送つてくださろうというお心遣いがとても有難かったです。

そんな気持ちを頂けたからでしょうか、前回金華山に來させて頂いた時のお掃除と似ていたからでしょうか……。鹿さんたちの糞が愛おしいと感じながらお掃除している自分にちよっぴり笑つてしまいました。きっと両方だと思えます。千々松さんに頂いたお心遣いが有り難くころを満タンにして頂いたから、前回の桜の下でのお掃除をご一緒した方々のことを思い浮かべていたから、何を見ても愛おしかつたんだと思えます。自分からお喋りしに行っている自分もいて何だか不思議でした。また、かごに山盛りの木の葉や鹿の糞を軽やかに運ばれる古松先生と志乃先生の姿を追いながら活動していると楽しくなつてくるのも不思議でした。お二人の運ぶリズムを見ていると私まで足が軽くなりました。

午後からは少し雨が降ってきました。ちようど、休憩タイムだったので雨宿りができました。でも、

坂本さんや末松さん、古松先生は、雨に濡れると取りにくいであろうと、ものすごいパワーですべて取り、運びきつてくれました。それを終え、テントに戻る頃には雨も小雨になっていて次の作業が（休憩が終わり）開始していました。雨の中していたことを言うわけでもなく、休憩していないからと休憩するわけでもなく、何もなかったかのように活動に戻られる三人の方々の背中が私にはものすごく大きく見えました。カッコよくて仕方がありませんでした。本当に素敵な方々と感じました。私は自分のしたことに、何かご褒美を欲しくなつてしまいます。成果であったり、認めてもらえる言葉であったり……。そんな自分が「ちっちゃいなあ」と、とても感じました。この場で素晴らしい先輩方と同じ活動ができること、若い方々が声をかけて下さつたりお話してくださつたりして下さることを心から感謝しながら過ごしていました。

夜のミーティングでもそうでした。学生さんたちがこんなに深い思いをもっていることになんだかとても温かい気持ちにさせていただきました。

古松先生や久井さんの大川小学校への想いや志乃先生先生の「ひまわりのおか」の読み語り……。胸がいつぱいになりました。ちようどあの地震があつた日、もうすぐ卒業するあの子たち

と輪になって、いよいよ卒業なのだという気持ちを味わわせてもらっていた私にはそれを迎えられなくなる……。すみません、言葉にできる気持ちではなく……。なんて言ったらいいか……。最終日に向かった大川小学校で、今回初めてお話を聞かせていただき、話をして下さつた方に絶対に繋がれる自分に……。と強く思いました。「ここにいる方は先生だから、それはわかつておいて欲しい」「ここで（大川小学校）でカメラを向け写真をパチパチとるような子にはしないでほしい」一つ一つの言葉に重く深い想いが詰まっていることを、言葉の奥にある想いを受けて繋がつて渡していける自分に……。

今回、初めて想いを聴かせていただけしたのは、神姫バスの方々の連携のおかげでした。それは大谷先生が日々言葉や行動にされていることを受けた運転手さんが繋げてくださったことでした。日常を丁寧に生きている大谷先生の姿が運転手さんに届いていて、その運転手さんが動いてくださつて、私たちに繋いでくださったことを思うと、いかに日々の姿が大事で、そして想いを伝えていくことが大事なのかを感じました。本当にありがとうございます。

道の駅では浅野さんと石森さんが来てくださつていました。石森さんは休日だったというのに、お店をあけて下さり、沢山のメンバーが来れるよ

う机や椅子を置いて下さっていました。その気配りがあたたかく、石森さんだなあと思いながら、お食事を待っていました。待っているとご夫婦が来られお店をのぞかれていました。今までの私だったら石森さんとお話ししながら食べたいと思っただと思います。でも、お休みの日にお店を開け座る場所を沢山用意してくださる、そんな石森さんのお店でいろんな方が幸せな気分になってほしくなっている自分がいました。想いを頂くとそんな気分になるのだなあとと思い、自分も石森さんのようなあたたかい人になりたいなあと思いました。

浅野さんには賞をもらわれた浅野さんの詩を見せていただきました。今まで聴かせていただいていたお話が溢れてくるかのように思い出し胸がいつぱいになりました。あの日のこともそうでしたが、娘さんへの愛で溢れている詩はあたたかさでいっぱいでした。

回を重ねるたび、自分の至らなさを感じます。まったく変わっていない自分を感じます。一方でみなさんのすごさやを感じます。また、人とのつながりが、石巻の方々の存在が自分を支えてくれていることに気づきます。本当に感謝でいっぱいです。

また、今回、角切の行事に参加させていただき素晴らしい時間を過ごさせてくださった金華山

の皆様方、受け入れて下さり本当にありがとうございます。そしてこのような企画をして下さる大谷先生や日本を美しくする会の皆様に本当に感謝でいっぱいです。感謝でお知らせないよう、それを繋げ次は渡せるようになるような自分になれるよう行動を…と思います。本当にありがとうございます。

★★奈良県四十代 女性★★

人生のターニングポイント…そう言っても過

言ではない四日間でした。六ヶ月ぶりの参加。少し緊張していました。体力的にも不安があり、約一ヶ月前から毎朝ジョギングを始めました。

午後二時から年休をもらい、いつもより早めに尼崎に着くと、すでにたくさんの方が来られていました。皆さん笑顔で迎えてくださり、私の緊張した心が少しずつ緩んでいくのがわかりました。今回もバス代をご支援いただいたことを知り、感謝の気持ちでいっぱいになりました。大谷先生がおっしゃっていたとおり、多くの方々のご支援、ご協力、そして心配りのうえに、私が参加できているのです。そう考えると、職場で年休を取るときに「石巻に復興支援に行きます。」という私の言葉も空々しく感じました。「支援」や「ボランティア」ではなく、学ばせていただきに行くの

です。しかも、すべてお膳立てしていただいたうえで…。このことを絶対忘れてはいけないと改めて思いました。

今回も感謝づくめの四日間でした。野球部の宮崎監督や、京都の山本さん、大阪の山本さんなどは、参加されないのを見送りに来てくださり、そのうえ差し入れまでくださいました。ありがとうございます。

お二人の運転手さんは、私たちが降り降りするときに笑顔で必ずお声をかけてくださいます。四十人以上の参加者全員にです。「ゆっくりして来てください。」車外で休憩するとき、そんなふうにお声をかけていただき、温かい気持ちになることができました。ありがとうございます。

大谷先生は、いつも大変な仕事を引き受けてくださり、そして私たちを「危うくない」方へ導いてくださいます。三日目の朝、参拝することになったとき、日野さんと交わされた会話を私たちにシェアしてくださいました。そのような先生のお姿から、私はいつも多くのことを学ばせていただいています。ありがとうございます。

渡邊さんは、いつもアンテナを張って、私たちや周りの風景に意識を向けておられました。私は渡邊さんの写真が大好きです。文字媒体より雄弁に状況や心情を語る写真、素晴らしいです。帰宅した後も大変な仕事が続いている渡邊さん、本当

にいつもありがとうございます。

いつもテキパキと指示を出される西貝先生。今回はサービスイリアなどで楽しくお話をすることができました。参加者一人ひとりにお心配りしてくださっているお姿がとても勉強になりました。ありがとうございます。

今回も、私はできるだけ古松先生について行こうと決心していました。古松先生の先を読んだ軽やかな動きと謙虚なお心の源は何なのだろうといつも考えていたのですが、今回少しわかったような気がします。古松先生は仕事がお休みの日も、ご自分の心身を修養する場に身をおいておられるそうです。古松先生と同じ作業をしても、私の方がすぐ疲れてしまったのは、体力の差ではなく、気力の差だと思います。古松先生は、いつも「氣」が前に出ておられるのです。そして、いつも周りの人に感謝され、そのおかげで自分がある……と思われているように感じました。まだまだ遠い存在ですが、目指したい方です。眺めのよい崖の上からの帰り道、お話ししてください。ことは、私の考え方、生き方を大きく変えるきっかけとなりました。ありがとうございます。

金先生はやはり素晴らしい方でした。この四日間ご一緒できて、そのことがさらによくわかりました。真理をついた話は、もしかしたら誰にでも話せるのかもわかりませんが、そのことを聴い

ている人の心に染み込ませるように伝えることが

ができる人はそう多くはないと思うのです。金先生のお話は、心の深い部分に染み込んでいきます。それは、金先生が私たちの心をまず柔らかくしてくださっているからです。茶目っ気たっぷりのユーモアも織り交ぜながら……。親子で尊敬しています。ありがとうございます。

今回、同室だった坂本さんと末松さんからも多くのことを学ばせていただきました。古松先生と同じように、先を読んでサツと動かれます。車中では、他の方の自己紹介などをずつと笑顔で頷きながら聴いておられました。私はずつと気がかりだったことを話したとき、親身になって相談のつてくださいました。暗闇に一筋の光が見えました。ありがとうございます。

夜の企画、今回もよかったです。ブルー（ときどきオレンジ）チームの山崎先生、松浦先生、小峠先生、お疲れさまでした。徳を積まれた先生方、私もいつかブルーTシャツを着て、ご一緒したいです。いつも会を支えていただき、ありがとうございます。

夜のグループディスカッション、私は「幸せ」をテーマにしたグループに入れていただきました。そのときお一人おひとりが話してくださいました。ことに、とても共感することができ、それこそ幸せな時間を過ごせました。西川さんの「笑顔が幸

せをよび、幸せが笑顔をつくる」、中村さんの「当たり前のことに感謝」、村口先生の「ありがとうございます」……どのお話も、私の心を温めてくださいました。

大阪産業大学野球部の安本さんは、とても大学生とは思えないしっかりしたお考えを持った方で、会うたびに成長されていることに驚きます。周りの方に感謝されていることがお話からよくわかりました。そして、廣谷先生の「幸せは真理。為に生きる」のお話は、これからの私の人生を支えるお言葉になりました。皆さん、本当にありがとうございます。

また、今回は私の大好きな朗読（絵本の読み聞かせ）を皆さんの前でさせていただくことができました。絵本「ひまわりのおか」の持つ力で、皆さんがしつとりと話を聴いてくださり、大変感激しました。貴重な機会をくださり、ありがとうございます。

角切り行事に、私たちの代表として参加してくださった埜口先生、石井先生、織地さん。果敢な挑戦、素晴らしいかったです。皆さんのおかげで伝統的な行事を楽しむことができました。ありがとうございます。

今回、私の最大の難関は、船でした。前回、金華山から帰るとき、酷い酔いになってしまったのです。でも、行きも帰りも山城先生と楽しく過

ごすことができ、船酔いにはなりませんでした。特に帰りは、船上からカモメにかっぱえびせんをやるという貴重な体験をさせていただき、楽しく酔う暇がありませんでした。船以外でも山城先生とは今回親しくお話しすることができ、とても嬉しかったです。ありがとうございます。

横山先生が放送大学の同期とは知りませんでした。横山先生が頑張っておられると思うと、私も頑張れます。ありがとうございます。

三谷先生のひたむきさが大好きです。浅野さんの講演会が開催されることを祈っています。私も三谷先生のように「想い」を持って行動します。ありがとうございます。

大川小学校では、地元の方のお話を聴くことができました。「こういう場所で写真を撮るような子には育てねえでほしい。」「(津波の災害が)今までねがった(なかった)からねい(ない)と思わなくて、今までねがったこともあるかもしんねいと思うことが大切。」地元の方々の想いを想像すると涙と体の震えが止まりませんでした。貴重なお話を聴かせていただき、ありがとうございます。

また、今回も久井さんの横笛を大川小学校で聴くことができました。鎮魂の音色が、今も心に残っています。久井さんにはトイレ掃除や窓ふきのことなどもご指導いただき、心から感謝していま

す。ありがとうございます。

仮設商店街では、石森さんに再会し、おいしい井をいただきました。わがクラスの子から預かってきた手紙を石森さんに渡すと快く受け取ってくださいました。クラスの子の喜ぶ顔が目に見えます。ありがとうございます。

わざわざ道の駅に来てくださった浅野さん。短い時間しかお話はできませんでしたが、またパワーをいただきました。ありがとうございます。十一月一日の文化祭がとても楽しみです。よろしくお願ひします。

今回も、大親友の智加ちゃんからは本当に多くのことを学びました。智加ちゃんの荷物のことなどが自分の物ではなく、他の人への愛であることを知りました。繋がりを大切にす智加ちゃん、つねにメモを取り、そしてハガキを書いていましたね。見習います。ありがとうございます。

そして、大切な同志の遼平くん、あなたにはまったくそんな気はないのだろうけど、私のすべての支えになってくれて、ありがとうございます。

ここには書き切れなかった参加者の皆さん、ありがとうございます。大谷先生からの指令は守れず、全員とお話できませんでした。次回は必ずお話ししましょう。

最後に：。出発の日、とてもかしこく過ぎ、気持ちよく担任を送り出してくれたクラスのみ

んな、午後からの授業を代わってくださいました先生、優しく声をかけてくださった同僚の皆さん、そして、留守番してくれた息子たちと、息子たちの面倒を見てくれた実家の母に、心から感謝の言葉を贈ります。ありがとうございます。

「復興地に学ぶ会」ですのに、結局私は参加者の方々から学んでばかりでした。次回は、もっと復興地の方々とふれあい、しっかり学ばせていただきたいと思っています。体験記とは名ばかりのダラダラと感謝を述べただけの拙文を最後までお読みいただき、ありがとうございます。

★★大阪府二十代 男性★★

第十四回復興地に学ぶ会に参加させて頂き、ありがとうございます。毎回厚かましくも席を一人分頂き、参加させて頂いています。今回で全十四回のうち十一回目の参加でした。

一日目、清掃活動をさせて頂きました。「もう終わりです」という段階のとき、三谷先生がそれでも手を止めることなく、「ここが気になりますよね」と丁寧に丁寧に掃除をされていました。自分の決めた場所を最後までやりきる。その姿勢から真の丁寧さを学ばせて頂きました。私は何にしても「このくらいいいか」と中途半端にしてしまいます。三谷先生のようにありたいと強く感

じました。

夜のディスカッションでは、古松先生の命のお話が胸にストンと落ちました。魂はずっと続いているのであって、今はこの体で生きているけれど、きつと以前は別の人の体で生きていた。そして、今この場所での金華山に集まっているというご縁。きつと以前からどこが繋がっていたのでしょうか。と、そんなお話をして下さいました。そのお話を聞いて、「その通りだ」と思いました。今日の前にいる人だけでなく、きつともつともつとたくさんの方々に導かれて金華山に来たのです。私を導いて下さっている方は、今の世でお世話になっていて下さっている方は、祖父祖母、曾祖父曾祖母も私を導いてくれている。もつと遡っていくと、数えられないほどの方々に導かれているのです。共にディスカッションをさせて頂いた古松先生や西貝先生、大阪産業大学の織地くんや福田くんとも、遡っていったところで、きつと繋がっていたのではないかと思えました。さらには共にバスに乗って石巻に行った皆様とも繋がっていたのではないかと思うのです。みんな繋がっている。そう思うと、心がなにか大きなものに包まれているような温かい気持ちになりました。そう考えていくと、今の自分の命は自分のものだけではなく、きつとその方々の命も生きている。自然と心の中で手を合わせるような、そんな気持ち

になりました。古松先生は所属している学年の生徒全員の名前を一人一人呼びながら、【ありがとう】と言っているそうです。すごいです。古松先生の表情からは愛情が溢れています。やはりそれは、古松先生の日々の積み重ねであって、私は本当にまだまだだと感じました。古松先生のように全てを包み込むような温かい人になりたいと心から感じました。

二日目、大川小学校へ行かせて頂きました。学級の子どもの顔が思い浮かびました。私ほどれだけこの子どもたちのことを思っているのかと振り返りました。些細なことで怒ってしまったり、自分の都合を子どもに押し付けている自分の姿勢を恥ずかしく思いました。もつともつと子どものもん全てを受けいれて、包み込むような温かさで接したいと感じました。改めて自分に足りないものを気づかせて頂きました。

鮎川浜に到着したときにはお世話になっている商店街の方が待つていて下さいました。また日曜日には、本来なら休むはずの日なのにお店をあけて、待つて下さっている商店街の方がいました。道の駅には、お世話になった避難所の元代表の方が娘さんと駆けつけて下さいました。渋滞のため間に合いませんでしたが、前回の活動でお世話になった小学校の先生も道の駅に駆けつけて下さいました。皆さん本当にいそがしいなか、

我々に会いに来て下さいました。我々が来るのを待つていて下さいました。もうそれだけで、嬉しくてたまりません。避難所の元代表の方は、握手をさせて頂いたときに「息子のように思っています」と言つて下さいました。どれだけエネルギーをもらっているのでしょうか。どれだけ人を想う気持ちが強い方なのでしょう。石巻に行かせて頂き、元気をもらっているのは私のほうです。できることは何もありませんが、これからも許されるなら待つていて下さる方に会いに行かせて頂きたいです。

最後になりましたが、お見送りに来て下さった先生方、掃除の会の方、日本を美しくする会の皆様、普通では考えられない行程にも嫌な顔ひとつされず終始笑顔で我々を安全に運んで下さった神姫バスのお二人、そして一〇〇%の準備を下さった大谷先生、貴重な学びを下さった今回参加された皆様、本当にありがとうございます。

★★大阪府四十代 男性★★

日本を美しくする会の皆様。大谷先生をはじめ、様々な方々が、影で、お支えしていただき、今回も東北の地へと足を運ばせていただき、ありがとうございました。本当に感謝しております。ありがとうございました。沢山の

書ききれないほどの体験をさせていただきました。その中から、体験発表で感じたことだけを書かせていただきます。

体験発表という場で、私たちは、命・被災地・幸せ・両親、などについてグループディスカッションをいたしました。私のグループは、幸せについて話合いました。普段、考えることもない幸せという言葉について、想いをめぐらし、グループで意見を交換しあい、いい経験になりました。帰途のバスの中で、同じ班で意見を交換していただいた、若い学生さんが、大人の方たちと一緒に、真剣に話ができたと喜んでいました。書いていたのが、私には、とても嬉しいことでした。

私は、先週、ようやく通信制の大学を卒業し、念願の教員免許をとることができました。手にした免許状を、母親、祖母にみせること、自分の孫が学校の先生の免許を取ってというのは、すごいことだと、祖母は、大変よろこんでくれました。実家の仏壇に供え、手を合せました。仏壇には、亡くなった祖父がいます。

体験発表の時に、命のバトンという話ができました。親から子へと連綿と続く命のバトン。それと同じ社会に生きる人間の、想いを繋いでゆくというバトン。どちらも大切なものです。

私の祖父は、戦争をくぐりぬけ、私への命を繋いでくれました。祖父は、ごく若い時に父親を亡

くし、小学校も四年の中途までしか行っていない。祖父は、苦労話や戦地での悲しい話は、口にしません。祖母から聞かせてもらった話では、子ども時分には、大変な苦労をしたそうです。でも、そんなことは、微塵も感じさせない、手先が器用で何でもできる人。そして、新聞をすらすらと読み、いろいろなことを教えてくれる、寡黙で家族想いの祖父でありました。

私は、祖父を誰よりも尊敬しています。

祖父は、教師という存在をあまり尊敬していませんでした。学校に行けずとも自ら学びました。戦前の学校教育、教師には、想いやりを感じたことがなかったのかもしれない。でも、そんな祖父でも、私が教員免許を取ったことを知れば、きっと、とても喜んでくれると思います。いい先生になってほしいと願っていると思います。

学校の先生という立場になれば、必ず、つらい気持ちになることもあるはずですが、祖父から受け継いだのは、命のバトン、そして、想いのバトンです。このバトンは私一人のものではないのです。乗り越えて行けるはず。そして、この復興地に学ぶ会で、感じさせてください。この、東北の被災者の皆様に心を寄せるといふ気持ち。風化させてはいけません。忘れてはいけません、この復興地に心を寄せるといふことを子どもたちに、

伝えていくことが、教壇にたつ使命の一つであるとも思っております。どうも、ありがとうございます。

★大阪府二十代 女性★

この度は、復興地に学ぶ会に参加させていただき、ありがとうございます。なぜ参加しようと思ったかと言いますと、第一回の雄勝でのボランティアで津波の恐ろしさを知ることから始まり、一年半たった今、被災地はどのような状況なのか、とても気になっていたので。今では、テレビや新聞などのメディアに取り上げられず、国民は過去のものとして、忘れていつているように思います。まだまだ復興したとは言えないのに・・・と思い、現状を知り、それを、学級の子どもたちや、職場の先生たちに知らせたいと思いました。

私にとって五回目の復興地。いろんな状況を見てきました。その都度、子どもたちに現状の様子を伝えていました。台風の影響で土砂災害があった昨年の九月、メディアから報道されていないすさまじさも忘れられません。

今回は、金華山での活動でした。金華山は私にとっても初めて行くことになってたので、とても楽しみにしていました。話で聞いていたように、海、芝生、大木、鹿・・・と、自然が素晴ら

しく、観光にもつてこいのとてもよいところでした。今は、震災の影響で、なかなか観光客がいないうで困っているようです。また、ここ最近、台風が来て、なかなか掃除が手つかずということ聞いていました。

鹿の角切りの行事に向けて角切り場やその周辺の掃除をしました。足の踏み場はとにかく、鹿の糞がたくさん落ちている芝生。すさまじい量でした。また、道路脇や斜面には落ち葉が大量に落ちており、掃除のし甲斐がありました。私は、ほうきで掃いたり、熊手ぼうきで落ち葉をかき集めたりしていました。あまり言っていないかもしれませんが、落ち葉の下など湿ったところに、ワラジムシやゲジゲジ、ムカデなどが大量にいて、気持ち悪く、苦手で、恥ずかしながら手で作業するのはできませんでした。そんな中、手でかき集め、かごで運んでくださった先生方、本当に素晴らしかったです。すごい言葉に尽きません。こんな役立たずでしたが、私なりに一生懸命きれいに掃除できたと思います。また、砂利道の脇には、台風の影響か、木の枝、大きいものから、小さいものまで、たくさん散らばっていました。それを拾い集めることもしました。見渡す限りとてもきれいになって、金華山に着いたときと、空気が全然違っていて、すっきりしたように思います。

夜は、「ひまわりのおか」という、絵本の読み

聞かせとデイスカッション。絵本は、津波で多くの命が奪われた、大川小学校の遺族の母親たちが書いた絵本でした。母親たちの子どもを思う気持ちがあるところに沁みて、涙が出ました。一瞬で命を奪われる悲しさ、まだ見つからない子どもがいるという現実がとてもつらく、でも前を向いて生きていこうとする家族の姿に感動しました。

また、デイスカッションでは、家族、命、幸せ、復興地という四つのキーワードで別れ、話し合いました。私は、「家族」のグループで話し合いました。さっきの本にもあったけど、家族は生きて健康でいてくれていたらそれでいいよね、とそんな話が何度も出ました。学生が、「今までお弁当を作ってくれるなど、長年の野球人生を支えてくれて感謝している。」や「家族に事故がない心配する」など家族への思いも聞けて、かけがえない家族をこれからも大切にしていこうと思えました。

次の日には、鹿の角切りでした。鹿の角は奈良と金華山だけで行われているそうです。一緒に行ったメンバーから三人、角切りに参加し、とても迫力があり、楽しい時間でした。また、帰りの船の中では、カモメにかっぱえびせんをあげる体験をし、楽しくて楽しくてたまりませんでした。金華山本当に良いところです。早く復興して、皆さんの観光客が来ることを願います。

本当に有意義な四日間でした。これまで企画運営してくださった、大谷先生をはじめとするみなさま。学び多き、経験をさせていただき、本当にありがとうございます。長時間のバスを安全・快適に走行してくださったバスの運転手さん、本当に感謝しています。

★★大阪都府五十代 女性★★

今回も素晴らしい方たちと一緒させていたいただきありがとうございます。

昨年九月、ガソリンスタンド経営の岡田さんは、津波の被害からやっと片付けが終わったと思っていた。さらに追い討ちをかけるように台風十五号のため、土砂がスタンドを覆い、前の歩道がえぐられ途方にくれていた。そこに大阪のボランティアの方が手伝ってなんとか復旧のめどがついたそう。あれから約一年、立派な事務所もできた。半年ぶりの再会だった。以前の小屋のような小さい事務所にも青空をバックに写した岡田さんとボランティアの人たちとの集合写真が飾られていたが、今回の新しい事務所にも同じ写真が飾られていた。嬉しかった。岡田さんのお話によると、鮎川の街は金華山観光の船着場として連休の時には、大型バス二十台ぐらいが、港にあったという。ざっと計算しても八〇〇人。夏休みなど

は子供が多く、もっと港は賑わっていたという。津波で防波堤が二回押し流されたあと、バタンと倒れたそうだ。岸壁も崩壊。道路もダメ。観光に使う大きな船はしけが来るとどうしようもないため、防波堤がない港には就けないそうだ。

鮎川の人たちは金華山観光復興のためには第一に防波堤、第二に岸壁、第三に道路と書いているが、行政は手のつけやすい道路から始めているということだった。やはり防波堤が一番工事が大変だから・・・ということだった。

今回は鹿の角切神事があり、仲間の方もはつぴを着て参加したこともあり、大いに盛り上がった。そして高台まで歩くとそこはまた海と金華山と半島が光り輝く絶景だった。このような美しい島に早くみんなが訪れ、心の洗濯ができる日が来ることを祈った。

そして私たち女性は一便の船で出発。船のおじさんがかっぱえびせんを二袋下さった。かもめの餌である。手を伸ばしてかもめに差し出す。かもめも必死で船の速さについてくる。そしてえびせんをとつていく。最初は口に噛まれたりしたが、だんだんコツを覚えてきて噛まれずにうまくえびせんをとつてもらうことができ、もう船の中は超エキサイティング!!!笑顔と拍手と歓声できゃーきゃー騒いでるうちに一気に岸壁についてしまった。かもめの全力飛びに感心した。

そして牡鹿商店街に。噂に聞いていたいしもりさんのお店で三色丼をいただく。お吸い物も丼も最高だった。

大川小に行く道中、夕日が北上川に映え、バスの車窓を赤く染めていた。どんな時も日は昇り、日は沈む。この大自然の営みに支えられている一方、時には人々の悲しむことが起こる。大川小の児童、職員の皆様、震災で亡くなられた多くの方々の命を、志を、希望を私たちはバトンで受け継いでいかなければならない。原点に戻らせていただく場所である。

お風呂(上品の湯)で浅野さんが「八月で援助も打ち切られると聞いたのもう皆さんと会えないと思っていたのですが、また十二月に来ていただける」と聞き、本当に嬉しいです。「皆さんと会えるのでまた元気になれます」(文責古松)とおっしゃっておられた。私自身は同じ年の浅野さんがすごいパワーで活動されていることにはただただ凄さと尊敬を感じていた。その尊敬する浅野さんが大阪のボランティアの皆さんと会えるのが嬉しいといつて下さり、私たちも勇気をいただけるし、双方が嬉しい関係・・・まさに天国!!!

最後に大阪産業大学野球部の皆様の心のレベルの高さには感心した。その体力、精神力、心の美しさでこれからの人生でたくさんの人を照ら

してくださいることを祈った。

今回も全て準備して下さり、東北までの舗装道路も数知れない方々の工事のおかげ・・・とかいって言ったらもうきりがありません。たのおかげで行かせていただき、感謝一万%です。無限の無限のありがとうございます。

PS これからは家に帰ってまずお仏壇にご挨拶させてから活動します。(笑)

★★京都府七十代 女性★★

第十四回復興に学ぶ会に参加させて頂き有難うございました。日本を美しくする会、便教会、掃除に学ぶ会の皆様に感謝申し上げます。今回で二回目の金華山神社様参加有難かったです。

山の動物は、神様のお使いと、聞きました。角切り行事に、同行の三人の方が参加され、素晴らしかったです。感動しました。一日目角切り行事があるので、掃除。学生さんがよく頑張られたので早く綺麗になり、嬉しかったです。

二日目は少し雨が降り押し入れの中やガラス磨きは。久井様のご指導によりピカピカになりました。トイレ掃除も綺麗になりましたけど、もう一度参加して綺麗にしたいです。

毎回訪れる大川小学校様そのたびに心が痛みます。久井様の笛の音も天国に届いています。日

本人の底力を出して復興地に学ぶ会も続けて行くことが学びです。大谷先生続けて下さい。お願いします。神姫バスの運転手様、復興地に学ぶ会に参加された皆様有難うございました。感謝申し上げます。また参加させてください。

★福岡県六十代 女性★

第十四回「復興地に学ぶ会」に参加させて頂き、ありがとうございました。

昨年三月十一日、TVから衝撃的な映像に茫然としながら見入りました。この光景は、私が住んでいる日本で実際に起こっている大災害なんだ、と言葉に表せませんでした。生涯、このようなことが起こると誰が思ったでしょうか。胸が痛みます。

機会があればボランティアに参加したいと思っていました。十月五日、尼崎バスロータリーに集合。すでに多くの参加される人、見送りの方について、初めての参加のため、その活気に戸惑いました。

石巻の門脇小学校広場、石井先生に時間を頂いたおかげで、散策できました。先生の説明で風景がここから一変しますよと、それは津波により火災災害が起きた場所でした。現在は瓦礫撤去され、被災の跡地に雑草が茂り、いつも通りの生活一変

した様子に、どうすることもできない無力に胸が痛みました。

黄金山神社では、聖武天皇の御代に創建された立派な社殿に感動しました。神鹿の角切り行事に氏子の方、仲間の三名が参加されました。歴史ある大祭りに、我を忘れ大声で応援しました。神主の日野さん、優しい笑顔感謝です。ありがとうございました。

夕方、大川小学校を訪問しました。祭壇から様子を知らることができません。児童・先生・子供さんを亡くされた両親の後姿に、ただ涙でした。校舎の前の北上川が、地震・津波によって多くの人達の命を奪ってしまった、さぞ苦しかったでしょう、無念だったでしょう。

未曾有の大災害は生涯忘れることができません。亡くなられた人、遺族の方を思いながらお線香をたむけ、ご冥福をお祈りさせていただきます。

ボランティアに参加、活動を通じて感じたことは、復興できる日が必ず来るということです。なぜなら、仲間がいるからです。先生・学生さん、バスの運転手さん、石巻の方皆様に感謝申し上げます。

★福岡県三十代 女性★

今回、「復興に学ぶ会」に初めて参加させて頂き、とても考えさせられることが多い貴重な時間を過ごすことができました。また、一方で、先生中心で運営されていたためか、自分で考える、相手の意見を聞く、自分の意見を発言するという時間が多くとられており、学生時代に戻ったような、有意義な時間を過ごすことができました。

テレビで東北のボランティアに関する番組を見ることがありますが、ダイバーの方々が海に潜って清掃したり、医者の方々が体調を崩した人をカウンセリングしたり、美容師の方々が被災者の方の髪の毛を切ったりと、様々な形でのボランティア活動があるということを感じます。今回の活動は、学校の先生らしい、優しさのこもったボランティアの形だったと思いました。

今回の震災で被災された方というのは、子供からお年寄り、あらゆる職業・立場の方々です。国の支援は、どうしても資金面やインフラ整備に偏ってしまうため、国の支援だけでは、物足りなさを感じる被災者の方が多いのではないかと思えます。そういった国では手の届かない部分を、色々な形でのボランティアで、少しでも支えていければと切に願います。

最後に、「復興に学ぶ会」に関わった全ての方々に、このような機会を与えて頂いたことを、お礼

を申し上げます。

★★奈良県二十代 男性★★★

どこか相手に求める部分がなくなっていて、自分中心にしか考えられないほど余裕がなくなっていた一学期。被災地を訪れることで「よどみ」が消すことができる気がして、参加しました。

【金華山での学び】

石巻市は、一年前に参加させていただいた時と比べ落ち着いた印象を受けました。しかし金華山に着くと、船着き場は沈み、そこにあるハウスの鉄骨は歪んでいました。津波の威力を感じました。また、山の斜面は大きく削られ、ゴロンと横たわったままの石も目につきました。街を離れば、やはり放置され、後回しにされた風景が広がっていました。

公園の掃除は、果てない作業に思えました。「僕ら、試されてるんですかね。」「でた、名言！試されてますねえ。」と姜先生と話しましたが、その通りです。皆さん真剣で、私はそれを追いかけるばかりでした。

夜はテーマ別にディスカッションをし、私は「被災地」について話し合いました。

・「復興」はどうなったときに言えるのか。客観的には立ち直った神戸でも心の傷を負った人は

まだいる。

・「被災者」と呼ばれることに対してどう思うか。

・「被災地」は、自分を成長させてくれた。

これがなければ、ボランティア力仕事という意識があった自分には、物足りなさを感じ、勘違いして帰っていたのではないかと思います。被災者のニーズに応えるこそがボランティア（奉仕）である、考えを改めました。

また、「復興」は被災者と支援者、社会が目指すひとつの形なのだという答えが出ました。人の繋がりを感じたり、気づきがあったりするのには、この「被災地」が非現実的、非日常的な場所だからであり、そのギャップから何かを見出すのではないかと考えました。だから、心寄せ続けるのだと。何もしなくなれば、多くの人々の中から薄れてしまうのです。私達は、「風化を遅らせる」使命を負ったのではないのでしょうか。今も前を向いて闘っている人がいることを、忘れてはいけません。

朝からは久井さんに教わり、トイレ掃除をさせていただきましたが、ここでも一所懸命やっていた先生や産大の学生さん達を追いかけるばかりでした。今の未熟な自分を受け容れ、変わるきっかけにしていこうと思えました。

【再会に感謝】

牡鹿のれん街での食事中に、後輩が会いに来て

くれたことが本当に嬉しかったです。もともと予定していなかったのですが、来る日を覚えていてくれ、勤務の合間に。それも石巻という地で。ここで再会する為に、大学時代に切磋琢磨しあったのかなあと思うほど不思議な気持ちになりました。しかし、皆さんと出会う前の私なら、きっとこんなにも有難く感じなかったと思うんです。人との出会いが、小さな当たり前に感謝することを思い出させてくれました。

【大川小学校に向かう】

悠々と流れる旧北上川の向こうには、夕日が真っ赤に映えて、切なさがこみ上げてきました。何百年変わらない景色と、一瞬で暮らしが変わってしまった三月一日。到着後にはタケウチさんが、思い出すのも辛い方が多い中で私達に伝えるために語ってくださいました。私達はそのバトンを受け取り、繋いでいかなければなりません。

道の駅では温泉に入りながら、子どもと一緒に来られていたお父さんとお話しをしました。「この子は、地震が起きた時は才だったけど覚えてる。これからこの子に教えていけないといけないこともたくさんある。大きくなったときにちょっとしたでも良くなってほしいね。」とおっしゃっていました。

【最後に】

四日間を通して、参加者の方々に引っ張ってい

ただくばかりでした。バスに乗った時から、強い志を感じていました。ドライバーさんを含め、仲間がいると思うだけで私は心強かったです。帰る途中でバスを降りていかれる時は、もう家族と離れるような気持ちになりました。ありがとうございました。

★★京都府二十代 大学院生★★

【金華山黄金山神社にて】

今回が早くも五度目の石巻入りになりました。このうち金華山は四月以来二度目になります。前は桜や夜の満天の星に感動し、ホームページの予定表で十月に金華山を再び訪れると分ったときから楽しみにしてきました。牡鹿半島から船で渡ると四月に大阪産業大学硬式野球部の皆さんが整えてくれた神輿を置く場所がきれいに残っていたり、前回福井県から来られたボランティアの職人さんが修復作業をされていた燈台が完成していたりと少しずつ復興しているのが嬉しくも思いましたが、一方では前回同様崩れたままの場所もあってまだまだこれからだということも感じました。

今回も前回のように広い草原の鹿の糞を集めて掃除させていただきました。連休中の日曜日に金華山の鹿の角切りのお祭りが開かれるためそ

の準備でした。四月には寺田一清先生はじめ先輩方から腰を低くして竹箒の面をできるだけ広く使って集めることを教えていただいたので、片方の手を箒の面に近づけて掃いてみる（こうすれば否が応でも腰が低くなる）と鹿の糞を狙ったところに集めやすくなることが分かりました。

一日目の夕方から二日目の朝にかけて雨が降りましたが（個人的にはこれで雪、晴れ、曇り、雨の全てを石巻で経験し感慨深いものもあった）、鹿の角切り行事のときには止み無事に観客席から見させていただけました。この行事は金華山と奈良県にしかないそうで私は見るのは初めてでした。走ってくる鹿、勢子さんの動き、つかまえた鹿との闘い全て迫力があり、中でもベテランの方が素手で鹿の角をつかまれたときには興奮しました。その後帰る直前には上の丘まで行き、四月とは別の場所から美しい風景を見て一層金華山が好きになりました。このように半分かそれ以上が観光気分になってしまっていることにふと気づきこれでいいのかと思うこともありましたが、日野さんはじめ宮司さんが二日間通して何度もありがとうございますと私達に仰って喜んでいて下さったのが救いでした。

【門脇小学校、大川小学校】

石巻に着いて最初に降り立った門脇小学校では間近で小学校前の民家跡を見ました。夏の間に

草が私の背丈を越えるくらいにまで伸びており、以前家の土台がはつきり見えていたころの記憶の中の姿から変わっていることに驚きました。最後に立ち寄った大川小学校も前回までとは違って着いた頃には薄暗くなっていました。今回は直前に別の神姫バスを運転して大川小学校を訪れた井上さんが私達をご紹介下さりご遺族の方に話を伺うことができました。雨の降る薄暗い夕暮れという私にとって初めての状況下で「一年半経った今も親御さんがさつきお子さんを捜しに行かれた」と聞いたとき、その「一年半」が日数の一言では片付けられない季節も天候も捜す時間もあるゆるものを含んだ言葉としてこれまでに以上に重く響きました。

一日目夜の部では大川小学校の生徒の8人のお母さんについての絵本「ひまわりのおか」を永地先生に朗読していただきました。子供たちとの「もう泣かないからね」という約束できない約束、千粒の種になった一つ一つの思い出、これと同じような話がその大家族だけでなく七十四人の生徒や十一人の先生方、地域の方それぞれにあると思ったとき、先程の日数の話のように数字のデータだけでつい「わかった」気になってしまう恐ろしさを感じました。この錯覚にはこれからもずっと注意しなければと思います。

【行動から】

絵本の朗読の後は班に分かれてのテーマ別の話し合いをして、私は「(被災地、改め)復興地」の班に入りました。この地に来ての出会い、学び、そこから生れる感謝やつながりは最初に行動を起したからこそ生れるという話になったとき、塾口先生に熊本から関西まで出てきて参加しようと思われた動機を伺うと「同じ日本で苦しんでいる人がいる中、その気になればできることを何もしないということ自体そもそも考えなかった」と仰いました。私は今思えば昨年の震災後約半年の特に大変な時期にもっと近くに住んでいながら、行けない理由を半ば自分に言い聞かせるようにして決断を下せなかったその一点は本当に悔やまれるところです。今回改めて行動する勇氣やそのための情報のアンテナを積極的に張る大切さを学ばせていただきました。そして日本で毎年のように来る自然災害に対してもこのことは当てはまるはずなので復興地に学ぶ会の体験を生かしていきたいと思いました。

【最後に】

今回行くときに個人的に楽しみにしていたことの一つが、二日目におしかのれん街の石森さんの店で初めて昼食をいただくことと、千々松さんの店に行くことでした。石森さんの店は大繁盛で、私達十人が行ったときにはメニューが売り切れていたところを特別にお惣菜やお汁を出してい

ただきました。四月に「次行きます」と言ったまま牡鹿半島に来ていなかったので半年間の夢が叶って嬉しかったです。千々松さんもコーヒールを用意して下さったり鯨の歯で作った印鑑を見せて下さったりしました。活動場所が牡鹿半島を離れても石森さんや千々松さんがいつも差し入れを持って会いに来て下さったりみさき屋さんがお弁当を作って下さったりと本当にお世話になっていきます。これからの金華山の復興をきっかけにしてまた賑わってほしいと思います。

今回もまた日本を美しくする会、大谷先生をはじめ便教会の皆様、参加者の皆様、神姫バスの新西さん・柳本さん・井上さん、金華山の皆様、石巻で出会った皆様とたくさんの方々のご支援ご協力があって行かせていただくことができました。厚く御礼申し上げます。本当にありがとうございました。

★★兵庫県二十代 女子大生★★

【たくさんの衝撃】

今回初めて、「復興地に学ぶ会」に参加させていただきました。また、初めて復興地に伺わせていただきました。石巻・金華山に伺わせていただくにあたり、石巻の被害状況はニュースや新聞である程度、把握しているつもりでした。が、しかし、こ

の活動で、それはただの「つもり」だったということ気づかされました。私たちは高速道路を降り、バスで門脇小学校に向かいました。小学校に近づくにあたり、景色がだんだん、変わっていくのを見てわかりました。色がなくなっている。先生方の、「ここは震災前まではここ全部、住宅だったんだよ。」という説明がなければ、初めてそこに足を踏み入れた私には分からないほど、草がたくさん生えていました。そして私たちは門脇小学校の前に降り立つことができました。私は、バスから降りて、なかなか足が動きませんでした。なぜなら、右横をみれば、窓ガラスがなく、校舎が黒くなっている門脇小学校、前や左を向けば建物が建っていた痕跡がなく、ただ草が生い茂っている土地、その奥には車や建物の一部の山。後ろを振り返れば今にも襲い掛かってきそうな山。なにか私は、異空間にきてしまったのかと錯覚してしまうくらい、恐怖を感じました。ここに、私の身長何倍もの津波が押し寄せ、たくさんの尊い命、思い出、当たり前の生活を一瞬にして奪ったのかと思うと、ただ悲しくて胸が張り裂けそうであまり歩くことができず、ただただ眺めることしかできませんでした。

【金華山での活動や思い出】

一日目…船を降りた時に、ここが私の活動場所か。と、尚、引き締まる思いをしたのを覚えてい

ます。この島に来て初めて鹿が、神様の使いということを知りました。その鹿の角切り行事のため、開催所付近の清掃をしました。行事に参加される方に気持ち良く参加していただくためにも、この島のためにも、精一杯、掃除させていただきました。そして、お昼休みに、高い丘に登ると、今まで見たことのない絶景があり、この絶景をまたたくさんの方に見てもらいたい！と、金華山にたくさんの観光客の方に訪れて欲しいとより強く思いました。夜ご飯には、お弁当を用意して下さって、受け取った時、そのお弁当がとても温かく感じました。人の手が加えてあると、実際は冷めていても、温かく感じるのだと幸せな気持ちになりますね。

夜ご飯のあとは、「体験会」。ある先生が、「ひまわりのおか」という本を読んでくださいました。母から子への愛。が痛いほど伝わってきて、何とも言えない気持ちになりました。私たちは被災者にはなれない。だけど、被災者の気持ちにはなることができる。という言葉を思い出しました。グループディスカッションでは、たくさんの方から、学ばせていただくことができました。幸せ・家族・命、そして復興地への考え方、とらえ方が、このように誰かと話し合い、シェアすることによって、私は、変わった気がします。その中でも、心に残った言葉は、当たりまえのことに感謝。命

のバトン。幸せは「ため」に生きること。改めて言われると、本当に大事なことばかり。自分はこういうことできてる？と自問自答しながら、自らを振り返るきっかけになりました。

二日目・初めて、トイレ掃除をさせていただきました！やり方に関しては、驚きましたが、このやり方の方がきれいに掃除できますね。トイレ掃除をしたら、なんだか自分の心も洗われているみたいで、気分爽快になりました！とても、楽しかったです。そして、鹿の角切り。めちゃくちゃ迫力があり、興奮しちゃいました。参加されたお三方、お疲れ様でした。そして、お世話になった金華山、絶景に別れを告げ、鮎川港に戻りました。

【牡鹿仮設商店街・大川小学校】

二日目のお昼ご飯に、牡鹿仮設商店街に寄せていただきました。新鮮でおいしい海鮮丼を出してくださいましたお店の方、「商店街が、にぎやかなこと、うれしいわ」とおっしゃってくださいました。お土産さんの方、震災の時のことを話してくださいました。酒屋の方、お世話になりました。ありがとうございます。次は、大川小学校に伺わせていただきました。バスの中で、ある先生が、大川小学校の三月十一日やその後を説明してくださいました。生徒、先生、保護者、地域住民の方。どんな思いだったのか、計り知れませんが、そしてあの土地に足をつけ、見渡した時のあのなんとも言えない

い空気、その時の感情はまだ、言葉？単語？にできません。思い出しただけで、また涙が出てきそうになるのです。私たちに、説明をしてくださいました地域の方、本当にありがとうございました。

【最後に】

大谷先生が、この会は、たくさんの方のおかげで、復興地に伺わせていただいている。ということをおっしゃっていました。文面で申し訳ございませんが、たくさんの方にお礼申しあげます。今回、ご一緒させていただいたメンバーの方、さまざまな大切なことを教えていただきありがとうございます。学びました。学ばせていただきました。本当に素敵なメンバーでした。この会に、行つといい！元気に、活動してくるんですよ！って送り出された家族にも、感謝します。

★★大阪府二十代 女子大生★★

私が復興地に学ぶ会のバスに乗せていただいたのは、今回で五回目になります。このバスは日本を美しくする会に寄せられた支援金を使わせていただいているということを知っています。何度もこのバスに乗せていただけることを本当に有難く思います。本当にありがとうございます。復興地に学ぶ会では、復興地という場をお借り

して人生について生き方について学ばせていた

だくということテーマに活動しております。私
が、何度もこのバスに乗せていただく中で、一番
恐れていることは、せっかく学んだことを忘れて
しまうということです。復興地には、私の普段の
生活とはかけ離れた状況があります。あることが
当たり前だと思われるようなものが奪われ
てしまっています。家、人、町、安全な生活、経
済の循環：挙げたらきりがありません。しかし、
あることが当たり前すぎて気づかなかったもの
が浮き彫りになります。人の温かさ、優しさ、強
さ、家族の大切さ、感謝の力：こちらも挙げたら
きりがありません。私は賢くありません。その場
では学んだつもりになっていても、普段の生活に
戻ると忘れてしまつて、当たり前のことに感謝で
きなくなつてしまつていることがあります。その
たびに自分の未熟さに気が付かせれます。そして、
このバスに乗せていただくことが申し訳なくな
ります。今回も乗せていただくかどうか迷いまし
た。出発の一週間ほど前に大谷先生に席に空きが
ありますかとメールを送らせていただいたところ、
ろ、空きが三席ありますという情報とともに、ご
参加ありがとうございますという内容の返信を
送つていただきました。これは、私にもう一度復
興地に行って学びなさいというメッセージだつ
たと、今になって思います。ありがとうございます

す。

金華山に行かせていただくのは二回目でした。
同じところにもう一度行かせていただくという
のは、その時に自分がやったこと、感じたことを
思い出すことができます。三月、貯水槽の泥だし
をかき出し土嚢袋に詰めて道を作った時は、東京
の掃除に学ぶ会の方々も一緒に作業をして、同じ
目的をもった人たちが作業するときの一体感
を味わったなあということ、次の人が作業しやす
いようにすることも思いやりにつながるという
こと、現地で長くボランティア活動をする方の思
いを伺ったなあということなど様々なことを思
い出させていただきました。

また、交流会では、幸せというテーマで話し合
いをさせていただきました。真剣に語りあう中で、
私は、地震が起こつて間もなくボランティアに行
かせていただいたときに、当たり前のことに感謝
することが幸せにつながるということを思った
なあというのを感じた当初の感情に近い気持
ちで思い出すことができました。

大川小学校は、毎回行かせていただいていると
ころです。この場所は、子を思う親の気持ちが詰
まっています。いつも、いろんな人の支えで生き
させていただいている自分の命を精一杯生きな
ければという気持ちにさせていただけます。

これをこのまま感じたままにしてしまうと、ま

た忘れてしまいます。このあと、この気持ちを忘

れずに、日々実践して継続して生きていけるかど
うかで、本当に学んだということになると思いま
す。その実践の一つとして、自分の経験したこと
を伝えるということ、今回は家に帰つてさせて
いただきました。私は、うまくしゃべれないので、
自分の感じたことをそのまま伝えることができ
ないという恐怖心から、自分の経験したことをし
ゃべりながらならないというところがあります。自
分の中で噛み砕いてから整理してから伝えようと
思っていると、感じたときの新鮮な感覚が失われ
てしまつて、かえつてうまく伝わらないというこ
とがあります。ですので、今回は、家に帰つてす
ぐ、父と母に自分がしてきたこと、感じたことを
伝えさせていただきました。父は父なりに、母は
母なりに一生懸命聞いてくれました。自分の感動
が伝わっているとということが感覚的ですが感じ
ることができました。また、親の姿を見て、親と
いうものは、娘がどんなことをしているのが気
になつていふということ、娘の成長を願つてい
ふということなど親の愛を感じることができ、新た
な学びを得ることができました。

そして、今回、自分が少し成長したなあと思つ
たことがあります。喜んでお金を使わせていただ
くことができるようになったということです。宮
城県に行かせていただくときは被災地であると

いう思いが強すぎて、楽しんではいけない、あまり笑ってはいけない、根掘り葉掘り聞いてはいけないという気持ちはどこかにあつて、牡鹿商店街でお金を使わせていただくときも、気を遣って使うという感じでした。今回は、観光客として金華山や牡鹿商店街を盛り上げるといふことも支援のうちに入っていました。現地の方が楽しめるようにいろいろ手配してくださったこと、同じバスに乗って同じ気持ちで作業した仲間がいたことなどが重なって、本当に心から有難く楽しませていただくことができました。

また、何度も行かせていただく中で、復興地に学ぶ会がいつもお世話になっていいる浅野さんに顔を覚えていただくことができました。浅野さんの元気の源は、大阪の人がこうやって宮城に来てくださることだということをおっしゃっていました。そのお話を聞いたとき、私に来るだけで喜んでくださる人が一人でもいるなら、私が何度も宮城県に伺わせていただく意味があるなということを思いました。このような私ですが、またこのバスに乗せていただけたら嬉しいのです。最後までお読みいただきありがとうございます。

★大阪府二十代 男子大学生★

JR尼崎駅に十八時半につき、バスのロータリ

ーには観光バスとその周辺に、筋肉ムチムチの若い人と、筋肉ムチムチの少し老いた人たちが。こんな体育会系の人たちについていけるか不安でしたが、皆さん優しく愉快な方々で助かりました。私がこの活動を通して感じたことはたくさんあるのですが、三つほど紹介させてもらいたいとおもいます！

一つは、『小さな一歩の大切さ』です。鹿の糞は一つ一つ小さく、ほうきで掃いてもなかなか上手くとれません。こんな小さいものをもって、いったいどうなるのか？と、考えるかもしれせん。時間もとてもかかります。しかし、続けているとみるみるうちにきれいになっていきます。皆さんと楽しく話ながらやっていると時間も忘れます。一部ではありますが、鹿の角切行事が行われる一帯は、鹿の糞はほとんど気になりません。鹿の角切行事当日は、私たちの団体とは違う方も観光に来ておられました。気持ちよく角切をみてもらえたんじゃないでしょうか？金先生がおっしゃったように、芝生も微笑んでるように感じましたね。

私たちがした活動はホントに微々たるものなのかも知れません。しかし、このちっちゃな活動がちっちゃな感動を生み、それを見た人たちがまた活動したり、観光にこられたりする。ちっちゃな一歩が、金華山を観光地として復活させ、東北

全体を元気にする良いサイクルになるんじゃないでしょうか？

もう一つは、『やってほしいと、言われることをやりました』です。「がれき」処理が未だ進んでなかった頃、遠くから映像でしか見てなかった僕は、早く「がれき」処理すれば復興が早まるんじゃないかと、思っていました。確かにその一面もあるかもしれませんが、私が映像で見た「がれき」は、現地に住んでいた人たちからすれば、ただの「がれき」ではありませんでした。以前まで生活していた思い出や宝物がまだそのなかにあるのです。自己満足の行動ではないのです。そんな気持ちを踏まえて、私たちはやってほしいと言われたことをやりました！

そのなかでも印象的なのがトイレ掃除です。トイレ掃除の神様がおられたので、トイレ掃除の真髓を一からご指導いただきました。特殊な道具を使うのではなく、あるものでやるということもこだわりですね。初めてです、和式便所の奥の奥まで腕を突っ込んだのは。始めは抵抗がありました。しかし、だんだん汚れがとれていくと楽しくなってきました。汚れているところを見ると嬉しくなるどころまでいってしまいました。汚れがとれていくにつれて、心も綺麗になっていくような気がしました。観光客が来るようになって、少しでも綺麗なトイレだと思ってもらえればうれしいですね。

最後の一つは、『感謝』です。この活動に誘ってくれた小峠くんや、団体を率いてくれた大谷さん、長距離運転をしてくれたドライバーの方、旅館の部屋を貸してくれた神主さん、その他の方にも感謝でいっぱいです。僕は一人では、生きていません。たくさんの人の支えがあつて生きています。不謹慎かもしれませんが、人はいつ死ぬのかはわかりません。死んでしまつては、その方々に感謝を伝えることができません。

浅野さんもおっしゃっていました、震災後やる気スイッチが入ったと。やりたいことは後回しにせず、やる！ご飯も好きなものから食べる！笑死んでから後悔しないようにしなくては。感謝も同じです。常に感謝の気持ちをもって生きていきたいと思えます。今回は、ホントに貴重な体験ありがとうございました。

★★大阪府二十代 男子大学生★★★

第十四回復興支援活動に参加させていただきました。ありがとうございます。今回も、バスで約1時間かけて石巻へ行きました。まず門脇小学校を見ました。そこで感じたことは、時間が止まつているように思いました。また、津波の恐ろしさを感じました。それから、鮎川浜より金華山のほうへと船で向かいました。作業は鹿の角切り行事の準備で、金華山の清掃を行いました。金華山はとても、きれいで、芝生が一面に広がり鹿がたくさん縦横無尽に走り回っているような島でした。しかし、島のあちらこちらで震災の傷跡が残っていました。崖は崩れ、道は狭くなり、観光客も十分の一にまで減つたとおっしゃっておられました。あれだけきれいな島が一瞬の出来事で、崩されてしまふのかと思うと、自然の恐ろしさを感じました。しかし、その人たちはまた一からコツコツ修復作業をしているのです。精神力の強さに驚かされました。日本人には、その精神力はみんな持つているのかもしれませんが。それを平和な日々が続き忘れていくだけのようにも思いました。そういうものを思いださせてくれたようにも思います。黙々と、他人と比べることもなく自分自身やるべきことをやることの大切さを僕は感じました。大学生の一番忘れがちなことのように思います。

二日目、牡鹿仮設商店街へ行きました。そこで、昼食をいただきながらお店の人と会話をしている中で、お店の方が「震災以来私は、好きなものを先に食べるようにしました。」とおっしゃっていました。それは僕には、今、瞬間を大切に全力で生きろと言われていたような気がしました。一分後一秒後何が起きるか分からない。だから、今全力で生きろ！と言われてる気がしました。すごい突き刺さった言葉でした。今回もたくさんの体

験をさせていただきありがとうございました。大学生なんかまだまだ子供で日々勉強だなと感じさせられました。まだまだ行動力、精神力、発言力、継続力、などなど足りないことだらけだと気づかされました。来年度から社会人になる前のすごいいいステップになりました。すべての方に感謝しています。ありがとうございました。

★★大阪府二十代 男子大学生★★★

今回の復興地に学ぶ会で僕は二回目の参加となりました。前回参加させていただいた時には、復興のために力になれて良かったと、自分自身で満足していて、復興地の方のことはなにも考えずに自己満足で終わってしまった。だから、自分自身の満足は二の次で復興のために、または復興地の方に喜んでもらえるようにしたいと思つて、今回の会に参加しました。今回は金華山の清掃が主な活動でした。活動していて本当にこれは復興のためになっていくのか？と思つたときもありました。逆に復興地の方に、鹿の角切り行事を見させてもらったり、船に乗せてもらったり、商店街をわざわざ開いてもらったり、宿舍を貸してもらつたりと、こちらが迷惑ばかりかけているのではないかと思いました。向こうの方は僕に来てくれと頼まれてるわけでもないし、僕が勝手に

行かせていただいているだけで、本当にこれでもいいのかと考えさせられました。しかし、清掃をすることで喜んでくれる人がいました。笑顔でありがとうと言われたときに、初めて行った意味があったなど感じました。自分以外の人のために頑張りました。また、こういった機会があったら、復興地に学ぶ会という名前で自分自身のために学びさせてもらおうとか、自分自身のために気付かせさせてもらおうとか、そういったことが目的かもしれないませんが、復興地の人のために、自分以外の誰かのために、復興のために、ほんのわずかなことしかできないかもしれませんが、僕ができることを精一杯やりたいと思いました。誰かのために生きてみようと思いました。

★★大阪府十代 男子大学生★★

僕は、今回初めて『被災地に学ぶ会』に参加させていただきました。僕は、以前から参加できるなら参加したいと考えていました。僕自身参加したことに満足していたような気がします。もちろん金華山の作業で手を抜いたつもりもありません。しかし参加したことで自己満足し、作業の時に気持ちが入ってなかったのではないかと思います。その中で僕がすごいと感じたことは四回生をはじめとする上級生と一緒にいかれた

方々の行動です。今回僕は、四回生の方と作業することが多かったのですが、毎回、四回生より一歩、二歩取りかかりが遅かったと思います。また、金曜日のギリギリまで仕事をしバスに乗って石巻につききつそうな顔ひとつ見せず常に笑顔で周りに気を配って取り組んでいる方々を見て僕もそんな大人になりたいと思いました。

そして、今回初めて参加させていただき、テレビで見てた映像の石巻を自分の目でみることできて正直言葉するのが難しい気持ちに襲われました。門脇小学校や大川小学校、崩れかけていた建物、バスの中からみえた景色をみたとき頭の中も心もまっしろになりました。小学生など幼い命や多くの方々の命がなくなったということを考えると改めて今自分が生かされてもらえてる命をもっと大切に、自分に関わってくださっている方々に感謝し、生きていくことができることを精一杯やろうという気持ちになりました。最近、震災のことがニュース等であまりとりあげられなくなり、風化してしまうのではないかと被災地の方は心配されていました。僕は、まず野球部の仲間や地元の人、知り合いに今回参加させていただいた事、自分が感じたことをうまく言葉でつたえられるかわかりませんが伝えていきたいと思いました。ありがとうございます。

★★大阪府二十代 男子大学生★★

大谷先生をはじめ、バスに乗っておられた復興地に学ぶ会の皆様、今回もたくさんの学び、気持ちを頂き、ありがとうございました。今回私は三回目の参加であり、前回は二月だったので八ヶ月ぶりの石巻市でした。毎回、何度も来られてる方は感じているとは思いますが、来る度に石巻の景色が変わっていると感じます。私が一番最初に来たときは、たくさんの瓦礫の山がそこらに散りばめられており、無惨な石巻を感じ、冬に行くとい面更地の上に大阪ではみることのない膨大な雪が覆いかぶさり、どこかさみしい石巻でした。今回は夏が過ぎ、更地のところに雑草がたくさん生えて野原になっており、これからさらに頑張っていくという明るい復興地の言葉が似合う石巻になっていました。

金華山は私自身初めて訪れて、船着場の方は地震や、台風の影響で地盤沈下や土砂崩れが酷く、神社の方へ上がると見違えるような綺麗な自然の景色や鹿がたくさんいて、すごく両極端印象を受けました。今回の金華山でのテーマはやってほしい事をさせて頂くということで産大のメンバーで溝掃除や、ガードレールの設置を日野さんのお手伝いという形でさせて頂きました。金華山復活をきっかけに観光客を集客し、経済効果をもたらす為に形として少しお手伝いできたことを嬉

しく思うと共に感謝したいと思います。

今回は一泊させて頂けた為、夜はテーマにそってデイスカッションをし、一番印象に残ったのは命のバトンタッチのお話を聞いたことです。親から子、そうやって先祖代々伝えていくバトンタッチもありますし、この復興地からの教訓を私達もまた違うところや世代に伝えることもバトンタッチです。また自分自身が知らないところで自然に誰かに影響させることができてるのであれば、それはまたバトンタッチなのです。これはどの場所でも全て通じるのだと感じました。東北の場をお借りして学ぶのも一つ、そしてそれが自分自身の生き方にも通じるのだと思いますし、そうなるもグラウンドでの野球にも通じるのです。この話を聞かせて頂いて、自分の中で今までグラウンドや色々なところで学んできたものがパズルのようにさらに繋がった気がします。そしてさらにそれを日常生活に入れ込むことが生き方なのです。

牡鹿の商店街で昼食のときに福幸井という海鮮丼を四回生で頂いたお店の方とのお話の中で何気ない一言が自分の中で深く印象に残っています。「人生いつ何が起きるかわからないからね。震災があつてから好きなものは一番最初に食べるようにようにしてるよ」いつなんどき何かが起きてからでは食べたいものも食べれないよということをほんと何気ない会話の一部で教えてくだ

さりました。そのお店は震災前は立派なお店もあり、それも全て流され、一から立て直されてきたなかで、このような気持ちが出たのだと思います。この何気ないことが深く印象に残っていますし、バトンを受け学びを得れた風にも感じました。今回もたくさんの方ともお話を聞く機会も得られ、自分自身の日常生活に繁栄させて頂こうと思えます。常に学ぶ姿勢を大事にすることを忘れずに！

★★大阪府二十代 男子大学生★★

今回一年ぶりにボランティアに参加させて頂きました。前回参加させていただいた時には、瓦礫や船がまだ陸に残っており、半年も経っているのに、まだまだ復興が始まってないんだと感じていました。今回牡鹿半島、大川小学校と前回も行かせていただいた場所に行く機会があり、昨年よりも瓦礫などがなくなっており、綺麗になっていて復興が少しずつ進んでいるなど、肌で感じる事ができました。

初めて金華山に行かせて頂き、島の周りが地震や台風の影響で削れており、恐ろしさが全面的に表れ、改めて自然災害の恐ろしさを感じました。金華山では、鹿の角切り行事に参加させて頂き心身共に興奮しました。日本でも、二ヶ所で見

る事のできない行事で、これも良い経験になりました。

また参加者で、四つのテーマに分かれて話し合いをする時間がありました。その中で、幸せについて考えるグループに入って話しました。幸せとは簡単に言うけれど、いざ考えてみるとなかなか難しく、意見交換するのに時間がかかりました。しかし色々と言葉を交わすと、話し合いも盛り上がり、自分以外の四人のお話が自分の胸にとっても響きました。やはり五人いれば五人とも考え方が違い、感じ方も違うのだなという事を改めて認識しました。今回参加させていただいた事を、来年から社会人として働いて行く為に、良い教材になったと思うし、そこに繋げられるように生活を送っていききたいです。

★★大阪府二十代 男子大学生★★

私は昨年の八月に初めてボランティアに参加させて頂いたとき、今年の十月までに四回石巻に行き、自分の目でその時その時の石巻を見ることができました。あの震災の被害は大きく、今もなお多くの傷跡が残っています。そして、本当は処理をしなければいけない物でも、それがその所持者の思い出の物となれば簡単には処理できないはずです。そうした物が私が初めて石巻に行った八

月から一年経った十月まで、ずっと同じ姿で山積みにされており、私は石巻に行く度に胸が痛くなります。しかし、そこから目を背けるのではなく、マスコミの報道が少なくなり今の現状を把握していない人に一人でも多く伝えられるように自分の足で石巻に行き、しつかり目にその光景を焼き付けて後世に伝えていきたいです。当然、自分一人の力では石巻にすら行きません。石巻まで安全に送ってくださるバスの運転手さん、ボランティアをしやすいような環境を作ってくださいる現地のの方々、ボランティアの話を持ちかけてくださる先生方、そうした方たちのおかげで自分もその一員となって活動することができました。そういったことを考えると中途半端なことでもできませんし、真剣に自分と向き合い、ボランティアに打ち込めるのです。こういう言い方をしているのかわからないですが、確実に石巻が今の私を成長させてくれました。

★大阪府二十代 男子大学生★

第十四回復興地に学ぶ会に参加させて頂き、私にとっては四回目の参加となりました。毎度、現地のの方々と一緒にいかせて頂いた方には学ばせて頂く事ばかりであります。恒例のバス内自己紹介では参加者された方の想いを聞かせて頂く

事ができるので、いつも非常に楽しみにしています。ほとんどの方がご自分のことより家族や生徒などの話しをされておりました。相手を想う気持ちが本当に凄い方達だと思いましたが、感謝の気持ちに満ち溢れている所がすごく印象的でした。

金華山に着き、神社まで歩いてみるとたくさん鹿が私たち迎え入れてくれました。三月に訪れた時よりも少し辺りが綺麗になっていたのでホッとしました。今回は前回と違い力仕事よりもガードレールを作ったり、辺りの清掃をしたりという作業をさせて頂きました。少し物足りなさを感じることもありましたが、やりきった後には達成感もありました。

夜にはグループに分かれて一つのテーマについてのディスカッションもさせて頂きました。私が出たグループでは「幸せ」について話し合いました。みなさんの様々な想いや意見を聞かせて頂き、気付かせて頂いたことがたくさんありました。中でも廣谷先生がおっしゃっていた「〜のために生きる」という事が幸に繋がる」と教えて頂いたことが印象に残っております。私自身いつもどこかで、人のためではなく自分のためという気持ちが先に出てきてしまう所があります。その部分は私の一番嫌いな所でもあります。廣谷先生のお話を聞かせて頂き、改めて気付かせて頂くことがで

きました。変わりたいと本気で思えるようにもなりました。何をやるにしても、自分ではなく人のためにといい想いを持ち続けたいと思います。

翌日には初めてトイレ清掃もやらせて頂きました。素手で便器に手を入れるのは正直ためらいましたが、やっているうちにもっと綺麗にしたいとも思えるようになりましたし、手を入れることにためらいも無くなりました。清掃を終えた後は凄く達成感もありました。このトイレ清掃は自宅でも実践してみようと思います。

運良く鹿の角切り行事が見れたのも大変貴重な経験をさせて頂きました。大阪では絶対に見れない光景なので凄く興奮しました。鹿のスピードや力にも本当に驚かされましたし、想像以上のものがありました。

今回の復興地に学ぶ会に参加させて頂き本当に良かったと思います。大谷先生を始め、参加者の皆様。そして、いつも安全に私たちをバスに乗せてくださる運転手さん。みなさんのご協力があるからこそ私たち産大野球部がこの会に参加出来るのだと感じております。先生方達から参加させて頂くたびにたくさんの方のことを学ばせて頂いています。本当にいつもありがとうございます。今後もこの会に参加させて頂きたいと思っております。よろしくお願い致します。ありがとうございました。

★大阪府十代 男子大学生★

はじめに、このボランティアに行くことができ
たのはボランティアに参加された学生、教師の
方々、皆さんがいたからこそボランティアができ
るのであり、僕一人では何もできなかったと思
います。また、大阪産業大学硬式野球部に入部し宮
崎監督と出会えたからボランティアに参加でき
たと思います。人と人との繋がり、出合いを大切
にしなければならぬと思いました。

今回、僕ははじめてボランティアに参加させて
いただいたのですが、実際に自分の目で感じて感
じるものはたくさんありました。ボランティアに参
加する前は自分には関係がないし他人事のような
考えを持っていました。しかし、今回ボランテ
ィアに参加して、震災にあつた方々はこんな苦
しんでいるのに自分は何をやっているのだ、あた
り前に生活をし、あたり前に学校に行き、あたり
前に野球をしていた自分がいたのは事実であり、
それを改めて気づかせてもらいました。

また「命」について話し合いをしたのですが、
自分は命の事について十分わかっていると勘違
いをしていました。大人の方の話を聞かせてもら
い「命」とはバトンタッチと同じで代々受け継が
れてきた家系を繋ぐ、そしてもうひとつは震災で
亡くなった方のためにも自分の目で見て感じた
こと伝えていかなければならない。自分はまだま

だ未熟であり学ぶものだらけであり、しつかり勉
強していかねばならない。これから先、何が
おこるかわからない、あたり前だと思つてはなら
ないし、感謝の気持ちを忘れてはならないと思
いました。本当にありがとうございます。

★大阪府二十代 男子大学生★

石巻ボランティアお疲れさまでした。今回でボ
ランティアに参加してもらったのは、三回目なの
ですが今までの二回とは違つて震災の瓦礫撤去
ではなく金華山の鹿の角切り行事が行われるた
めにむけての清掃でした。今回正直な気持ち東北
の復興に少しでもなれたかと言つたらあまりな
れてないように感じます。しかし、金華山の人や
鹿の角切り行事をやる皆さんのための清掃だつ
たかと思えます。これは、自己満足になるのかも
しれないんですけど、誰かのために行動したりす
ることは自分のためでもあり誰かのために何か
をやるといふことは自分の成長につながると思
います。

夜にグループデスカッションをやり私は家族
についてやらせてもらったんですけどどの先生
方もすごい意見で小学校などの教師をやる人は
ちゃんと自分の意見があると思えました。私も一
人暮らしをしてから親の有り難みそして家族へ

の思いを素の自分で話せたので良かったと思
います。

そして最終日に大川小学校へ行って色々な話
しを聞かせてもらい改めて今こういう生活をし
ているのは当たり前じゃないというのをおも
いらされました。東北のようにいつ、どんな時に
地震や津波がくるかわからないので一日一日を
大事にして後悔のないようにこれから生きて行
こうと強く思いました。ボランティアに三回さし
てもらつて三回とも良い経験ができて非常に良
かつたと思います。この経験を忘れることなくう
まくいかせていけるようにやっていきたいです。

★大阪府二十代 男子大学生★

第十四回復興地に学ぶ会の活動どうもお疲れ
様でした。僕はこの会に参加する際に必ず何か感
じて帰ろうという心掛けで参加させて頂きまし
た。話すのがあまり得意では無く人に伝える能力
が欠如しているとは思いますが誰にでも自分の
中で何か感じるというものは出来ることです。そし
てその感じるということが最も大切なことなの
ではないかと思えます。

今回感じたことは幾つかありました。それは向
こうの方々はとても前向きであるということ、人
のつながりはすぐく広く、そして近いということ、

などです。まず向こうの人が前向きであると感じたのは復興のために黙々と作業する人や明るく働いている人との出会いからそう思いました。今回は金華山の神主さんや、船のお父さん、仮設商店街の店の方々に出会い。僕たちをもてなしてくださったのですが、とても明るく活気がありました。僕たちが今回楽しかったと思えたのは向こうの方々の気遣いからそう思えたのであり、とてもありがたいことなのだと感じました。

そしてもう一点である人のつながりに関して感じたのはボランティアに参加してらっしゃる方の中に僕の先輩とつながっている方がいたことや、あの会に参加することにより全く知らなかった方々とあんなにも真剣に語り合えたことはとても素晴らしいことだと思います。こうして人のつながりはまた広がりますし、ボランティア活動も広く浸透していくと思います。今回で参加したのは二回目になりましたが回数など何の関係もなく初参加であっても気持ちが一番大切なのだと思います。なのでまだ行つたことがない方も行つたことがある方も何か学び、感じるためには是非参加して欲しいと思います。表現できなくてもいいんです。自分の中で何か感じて欲しいです。どうもありがとうございました。

★大阪府二十代 男子大学生★

今回も復興地に学ぶ会に参加させていただきました。僕自身参加させていただくのは、四回目で前回に引き続き金華山での作業となりました。相変わらず土砂崩れの形跡が残っていて一年以上経っているのにもかかわらず、地震の悲惨さが浮き彫りになっていました。活動としては、鹿のフン掃除や側溝の泥抜きなどをさせていただきました。

他のボランティアの方々と活動していると色んな有難いお話を聞く事ができました。七十歳を越えた方もおられて今のこの便利な時代ではなくすべて手作業だったころの話しや昔の人はどういふ暮らしをしていたかといった話しを聞かせいただきました。

そして金華山の一年に一回行われる鹿の角切りという行事を観させていただきました。そこで一回生の織地が参加させていただけるといふことで野球部代表として行っていました。このように一年に一回の大変大切にしてこられた行事に立ち会えて本当にありがたいなとおもいました。ボランティアを通じて自分が目指すべき、目標にすべき方々と共に同じ空間を共有させていただけた事に感謝し、復興地の存在があつて、僕が復興地に学ぶ会の方々と出会えてつながり合える事に感謝して今回のボランティアで学ばせて頂

けた事をいかして生きていきたいなと思います。次回も参加させていただきたいと思います。ありがとうございました。

★大阪府二十代 男子大学生★

今回の石巻のボランティアは私自身二度目の参加となりました。最初に参加した時は津波が去り台風の影響で震災で半壊した家々が完全に潰れてしまった場所の瓦礫撤去をしました。その時は全てがただの瓦礫と思ひ作業をしていたのですが、実際に震災に遭われた現地の方々から潰れてしまった車や家の部品、家具、おもちゃはただの瓦礫ではなく、一つ一つ一人一人の思いが詰まった思いでの品という事を教わりました。そしてその思いをしっかりと自分の中に落とし込み今回のボランティアに参加させていただきました。

今回は金華山の掃除をメインにやりました。金華山では後日鹿の角切祭のために糞などを掃除しました。そこで出会った日野さんという方にいろいろ指示を頂き行動しました。途中で野球部で台風で決壊してしまつた崖沿いの道にスロープを取り付け、流れが止まつてしまつた小川の修復をしました。そして一日目が終了し、日野さんの話を聞いていると日野さんの表情が凄く穏やかで安堵の表情をしていた事が僕の中で今回ボラ

ンティアに参加して一番の収穫だと思いました。そしてその夜に家族をテーマに考えあいました。実際に小学校の先生をしている方の話を聞いていると、いろいろな人間がいる中で様々な家族の愛情の形があると思います。とても勉強になりました。

そして後日、角切祭が行われました。その角切祭はとても迫力があり凄く楽しかったです。その帰りに被災した大川小学校に冥福をお祈りしました。そこにお子さんを亡くした遺族の方々がいました。そこにいた女性の方々が僕らボランティア団体が観光バスでやってきて、やはり悲しそうな顔をしていました。その表情を見て、いてもたってもいられない感じがしました。そうゆう思いがある中で大川小学校に行ったので、これは必ず風化さしてはいけないと思つたし、どんどん伝えていかなければならないなあと感じました。そして帰りのバスに乗りました。今回のボランティアでは作業というよりは家族、命、幸せ、という事に関して凄く考えさせられました。

★大阪府二十代 男子大学生★

今回、私は三回目の参加となりました。参加するにあたり、このような場を与えて下さる復興地に学ぶ会の皆様、私達が参加する上で事前に準備、

差し入れなどをして下さった皆様、東北地方で私を受け入れ勉強をする場を与えてくださった皆様、本当に感謝しています。ありがとうございます。

今回は、金華山での活動をさせていただきました。すごく美しい場所でした。現地の方によると、被災前は年間五十〜六十万人の方が足を運ぶ場所だそうで、被災後は年間五万人程度で十分の一にまで観光される方が減っているとの事でした。又、牡鹿半島の復興の為に、この金華山への観光客を取り戻す事が大切だというお話もお聞きしました。

作業内容としては、作業二日目に行われる神鹿角切り行事祭の準備でした。大谷先生が「今、一番やって欲しいと思われている事を、一生懸命に笑顔でやろう！」という事を言われました。私がいとも参加させていただいた時に感じる事です。が、私一人の力は微量でもできてないような気持ちになるのですが、そんなのは関係なくできる事を全力で、やらせていただく事が大切だという事。そして、全員で協力し行う事です。ごい力が発揮できる事を実感できます。私達硬式野球部は金華山の道路整備を行いました。台風の影響もあり、土砂崩れや道路が崩れていた所を観光客の方や金華山の方達の移動が危なくないようにガードレールを作りました。自然災害の恐ろしさを感じ、

金華山のような美しい自然。自然災害のような、怖い自然。いろいろな顔を見せてくれました。私達が作業を行つてる時に、一番一生懸命やつておられたのは日野さんでした。やはり、復興させた！もう一度金華山を観光地にしたい！という思いが感じられました。何かできる事を…役に立ちたい！という思いで行いましたが、やはり私たちと経験が違いました。何年経っても被災された方の気持ちにはなれませんが、その気持ちを理解しようという心は忘れてはいけないと思います。

二日目の夜には、ディスカッションの場を与えていただき、いろいろな先生の声を聞かせていただきました。このような御縁を大切にすること。人生のバトンについてなど、多くの事を勉強させていただきました。二日目には、大川小学校へ行き被災された方のお話を聞かせていただきました。「学校の先生は大川小学校に来て、パシャパシャ写真を撮るような子どもは育てないでください」という言葉が印象的でした。私は将来教員になりたいと考えています。まだまだ勉強は必要ですが、すごく心に響きました。

そして帰りには、道の駅で浅野さんと夢結ちゃんがわざわざ来ていただきました。この活動に初めて参加させていただいてから、浅野さんには本当にいろいろな事を学ばせていただきました。浅野さんの笑顔を見たらとても嬉しく思います。今

回、参加させていただきましたが、これからが大切だと思います。この四日間は与えて下さった場所で一生懸命やるだけでしたが、これからは自分で自覚を持ち行動していかねばなりません。しっかりと生活していきます。ありがとうございます。

★★兵庫県四十代 男性★★

金華山には牡鹿半島の鮎川浜から船で渡ります。現在は定期船がありませんので、特別チャーター船をお願いしています。しかし、小型船ですので、波が大きくなると出航できません。大阪から十三時間かけて鮎川浜まで行き、船が出ないという場合も想定しておかなければなりません。そのような時、心意気一つで、牡鹿ボランティアの遠藤太一さん（PIKARI支援プロジェクト代表）が私たち四十五名分の宿泊場所と、活動場所を確保して下さいました。

また、いつも美味しく頂いていた手作りパン（牡鹿にある福祉施設の「くじらのしっぽ」製造）は、都合により製造場所を石巻市街地へ移されましたが、金華山で活動する時には、いつも夕食として、おしかのれん街（牡鹿仮設商店街）の「みさき屋」さんにお弁当を作って頂いています。

最終日には、おしかのれん街の「旬魚旬味い

しもり」さんや「鯨歯工芸 千々松商店」さんが大歓迎して下さいました。また、帰り際、道の駅までお見送りに来て下さった浅野さん親子、石森さん親子。このように見えない所で心配りを頂き、ガツチリと心がつながっていることに気づいた時、言葉では言い表せない幸せな気持ちになります。

今回も、またこれからも、私たちはボランティアをしているとか、復興支援活動に出向いているというスタンスではなく、石巻の大切な仲間に行き、大切な仲間に関心を寄せ、温かい幸せな気持ちと共有していく中で、大切なものを学ばせて頂きたく存じます。ありがとうございます。